

<令和元年度>

鳥取県文化芸術事業

# 評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

# ～ 目 次 ～

|      |  |    |
|------|--|----|
| I    | 総合評価   | 1  |
| 1.   | 本年度の評価方法   | 1  |
| 2.   | 本年度の事業評価   | 1  |
| 3.   | 今後の評価に向けて  | 3  |
| II   | 実施結果概要   |    |
| 1.   | 実施事業一覧   | 4  |
| 2.   | 評価の体系  | 4  |
| III  | 事業別評価  |    |
| ・    | 第10回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）                                      | 5  |
| ・    | 第63回鳥取県美術展覧会（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）   | 9  |
| ・    | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2019メイン事業<br>とリアート2019メイン事業「鳥取銀河鉄道祭」（鳥取銀河鉄道祭実行委員会） | 12 |
| ・    | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2019 東部地区事業（東部地区企画運営委員会）                           | 16 |
| ・    | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2019 中部地区事業（中部地区企画運営委員会）                           | 19 |
| ・    | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2019 西部地区事業（西部地区企画運営委員会）                           | 25 |
| ・    | 第41回鳥取県書道連合会展（鳥取県書道連合会展）   | 30 |
| IV   | 専門家評価  | 33 |
| (参考) |  |    |
| ■    | 鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿  | 38 |
| ■    | 鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告書執筆担当一覧  | 39 |
| ■    | 鳥取県文化芸術事業評価委員会 開催状況  | 40 |
| ■    | 鳥取県文化芸術事業評価委員会 設置要綱  | 41 |

(別冊) 令和元年度 鳥取県文化芸術事業 評価報告書《資料編》

# I 総合評価

## 1. 本年度の評価方法

評価方法について、基本的には昨年度と同様である。評価シートの項目は、昨年度見直しを行った通り、それまでの大項目を「目的」とし、中項目を「取組目標」に、小項目は「行動計画」と改め、目的を達成するためのより具体的な方策を、各事業の実施者に設定してもらうこととした。

評価の客観性を確保するため、各事業とも複数名の評価委員が検証することとしたほか、事業開催当日のみを対象として評価するのではなく、プレ事業やリハーサルなど、制作過程や関連事業などについてもできる限り実地検証を行い、評価の材料としている。

その上で、実施者が設定した取組目標や行動計画に対する自己評価、観客アンケート、実施者アンケートなどを踏まえて、実地検証した委員それぞれが評価レポートを執筆。そのレポートを、事業ごとに定めた主筆・副筆担当がまとめたものを例年通り委員会場で意見交換する計画であったが、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大を受けて集会を自粛することとなった。そのため、各事業の主筆案を委員に書面で送付し、回答意見を主筆・副筆が検討、反映させた上で、それぞれの事業の評価原案を作成した。

また、事業実施者との認識の相違や事実関係の誤認防止のため、実施者に評価原案を提示して行う意見交換も、本年度は委員会場における対面形式ではなく、書面（評価原案シート）の往還にて実施した上で、より適正な内容となるように原案を修正し、評価報告書としてまとめた。

達成度は、昨年度と同様に「達成」3点、「概ね達成」2点、「一部達成」1点、「未達成」0点と数値化し、パーセンテージで表した。

昨年度と同じく、事業実施者、評価委員会ともに評価欄に【成果】と【課題】を明記している。

報告書は、本編と資料編から成る。本編は実施者の自己評価コメントと評価委員会のコメントを併記。資料編には入場者数やアンケートなどの数値的な定量目標と実績を表記。事業ごとにグラフ化もし、視認しやすい内容としたほか、各事業のチラシも掲載した。

## 2. 本年度の事業評価

評価対象とした事業は、次の通り、合わせて7事業である。

鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業については、助成金額の大きな基本型モデル事業を評価対象としている。

- ① とりアート・メイン事業（1事業）
- ② とりアート・東、中、西部の各地区事業（3事業）
- ③ 鳥取県文化政策課主催事業（とっとり伝統芸能まつり、鳥取県美術展覧会の2事業）
- ④ 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業の基本型モデル事業（1事業）

### (1) とりアートメイン事業 「鳥取銀河鉄道祭」

設定された目標・行動計画の達成度は、事業実施者の自己評価および評価委員会による評価指標のいずれも81%であった。決して低い値ではないが、近年のメイン事業の実績は平成30年度が88.9%、平成29年度は90%

以上であり、同ジャンルの催しではないので同一に評価することは難しいものの、それらに比較すると若干下がった結果となった。

一方、アンケートによる観客満足度は平成30年度の89%、平成29年度の94.6%を上回る95.9%と高く、質の高い事業となったことは明らかである。アンケート回収率も51%（平成30年度9.6%）と極めて高く、満足度の高さを裏付けできる値である。

本年度、特記すべきこととして、従来のメイン事業の形式を大きく変えたスタイルで取り組んだことを挙げたい。メイン事業は「プロセニアムのホールのステージで上演され、来場者は客席で鑑賞する」という概念を取り払い、「ゲキジョウ実験」の名にふさわしく、県西部でのプラネタリウムでのアプローチや県中部でのワークショップなど、中小規模の事業を全県的に展開し、その成果を本編で結集。内容も自由で芸術的な試みがなされ、幅広い層の県民が出演参加したことを大きく評価したい。

課題については、メイン事業としては設定された客席数が少なく、県民への鑑賞機会の提供という点に難があった。また、今回培った県民出演者の活動意欲やエネルギーを今後の県内の文化芸術活動につなげるにはどうすべきか、参加・育成した人材などの成果を今後につなげるのか、具体的なものが示されなかったのが残念である。これは、現在のメイン事業の実施方法である実行委員会形式での課題ともいえるが、本編での素晴らしいエネルギーを今後の県内の文化芸術活動に生かせる仕組みが必要である。そのためにはメイン事業そのもののあり方や形式も見直すなどの検討が求められる。

## (2) とりアート各地区事業

東部、中部、西部の3地区ともアンケートによる満足度は94%以上と高く、各地区でカラーは異なるものの、それぞれ来場者のニーズをとらえた企画を実施した成果が表れた。また、アンケート回収率は、いずれも40%以上と高い水準だった。昨年度、回収率が低かった東部と中部に回収率向上の努力を求めたところ、本年度は東部が43.8%（昨年実績25.1%）、中部は驚異的ともいえる59%（同39.4%）と大きく伸ばした。西部は43%（同55.9%）と昨年を下回ったのは残念だが決して低い値ではないので、各所とも引き続き回収率向上に努めて来場者の意見や感想を事業に反映させてほしい。

東部事業は、事業実施者の自己評価と評価委員会の評価指標の双方で達成度が94.4%と、3地区で最も高かった。目標を達成するための行動計画がよく練られており、その実現に向けて具体的な取組を実施されたことが達成度の高さにつながったと考えられる。多様なジャンルの催しをほぼワンフロアに上手にまとめあげており、それぞれの質も高かった。ステージイベントに手話同時通訳を取り入れた取組も評価したい。課題として、広報のさらなる充実を求めたい。事前広報は元より、例えば当日も会場の外に「とりアート開催中」の「のぼり」を立てるなど、開催を知らない通行人らにも入館してみようかと思わせるような仕掛けを検討してはどうか。せっかくの良い催しだが、まずは来場してもらわないと楽しんでいただくことができない。

中部地区事業は、通年のテーマである「次世代育成」について、ステージ発表や展示だけでなく、フードコートでの高校生によるレストランなど、イベント全体において次世代育成を意識した取組がなされたのは素晴らしい。会場には参加団体と来場者の醸し出すまとまりと一体感があり、本年度はメイン企画が開催されてメリハリもついた。また、初日が台風に見舞われ、一部の団体が出演キャンセルとなる環境であったが、来場者数が3会場の中で最多の3,786人だった。ただ、手放しでは喜べない面もある。県外からの来場者が例年より約10ポイント高い（雨天による梨記念館の観光客の滞在時間延長のため）というプラス要因があったものの来場者数は目標を大きく下回った。これは課題にもつながる。過去にも大雨で屋外のフードコートがほぼ利用できないことがあったにもかかわらず、今回、荒天時のフードコート対策が十分に練られていなかった。屋外を利用する催しがある以上、荒天時の影響を最小限に抑え込む対応シナリオの準備が必要だと考える。

西部地区事業は、「こどもと一緒にアートしよう！」のテーマに沿って、公募企画事業の応募者にも選考前の面談や実施者への綿密な事前打ち合わせをすることでイベントの趣旨について実施者との共通認識を図り、意識を共有した上で極めて質の高いさまざまな催しを展開したことは、模範となる取組であるといえる。テーマへの参加者の意識の共有というのは一見当たり前のようだが、多くの公募参加者も出演する地区事業において、形式的でなく実態的に意識を浸透させるには相当の時間と労力が必要とされる。地区委員会の姿勢と努力を高く評価したい。課題は、定量目標の達成状況についてである。先に書いたようにアンケート回収率は43%で、昨年度実績55.9%、目標50%のいずれにも届かなかった。入場者数も1,266人であり、昨年度実績1,811人および目標1,500人の両方を下回る結果となった。観客満足度は目標の80%を上回る94.3%を達成したものの、昨年度実績の96.5%にわずかに及ばなかった。会場は昨年度と同じであるため、これらの定量実績の結果について要因を分析し、広報のあり方も含めて次に生かせるように改善を図ってほしい。

## (3) 鳥取県文化政策課主催事業

「とっとり伝統芸能まつり」は、県内の伝統芸能のみならず、海外や県外の質の高い演目の鑑賞機会を県民に提供できる催しであった。しかし第10回となった本年度は、予算が対前年度比35%と大幅に縮減。事業のあり方が県内の伝統芸能の発表の場へと大きく変更され、昨年度と容易に比較できない状況となった。入場者数は昨年度の1,502人を大きく下回る585人となったものの、アンケート回収率は昨年度実績39.4%、目標40%

のいずれも上回る56%で、その満足度は100%を達成した。課題は何といっても入場者数である。予算削減で広報が行き届かなかった面もあろうが、県内文化団体では過去に同規模の有料公演で900人以上の来場者実績の催事もあり、多角的な広報で入場者増に努めてほしい。また、海外団体は無理としても、せめて質の高い県外団体の伝統芸能の鑑賞機会を県民に提供できるよう、その予算増を主催者の県に求めたい。

「第63回鳥取県美術展覧会」（県展）については、来場者が10,015人と昨年度実績9,573人、目標1万人を上回り、会期1日当たり来場者数も227.6人で昨年度実績217.6人を超えた。昨年度19.8%だったアンケート回収率は38.2%と飛躍的に向上。これら定量目標の達成を評価したい。また、鑑賞者投票「あなたが好きな作品賞」を新設し、投票用紙をアンケートの裏面にしたことは回収率向上にも大きく寄与。一部の作品を除いて写真撮影を認め、SNSへのアップを可能とするなど新規の取組は県展の新たな扉を開いた。課題は、出品数が目標の600点にわずかに及ばず591点だった点と、20歳代以下の鑑賞者割合が、掲げた目標の10%に届かない

6.5%だったことである。いずれもいま一步なので達成に向けて努力されたい。また、キャプションの文字が小さくて読みにくいという鑑賞者の声が多くあるため、改善してほしい。

#### (4) 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業・基本型モデル事業

第41回鳥取県書道連合会展について、書道作品の鑑賞に不慣れな来場者にも親しみやすい「童謡・唱歌を書く」は、定番となっており人気が高く、出品作の質も担保されている。継続的な取組を評価したい。高校生の作品の展示も良かった。また、昨年度10.2%だったアンケート回収率の向上を求めたところ工夫され、目標の40%を大きく上回る49.7%を達成されたことは素晴らしい成果である。事業実施者によると「回収率は上がったものの細部項目への記述が無いものも多く、記述内容は昨年度のほうが濃いものであったと感じられた」とのことだが、昨年度は第40回の節目の記念展として、中国吉林省や台中市からの作品出品や訪日団の実現、若き制硯師として活躍する青柳貴史氏の硯の展示など、記念事業ならではの特別な取組がなされたことも記述内容の濃密さに関係しているのではないかと感じる。質の高い展示なので、引き続き回収率を維持してほしい。来場者数も昨年度実績610人、目標800人を上回る853人を達成した。課題としては、満足度が88.4%で、目標の90%および記念事業のあった昨年度実績の91.9%に及ばなかった点である。しかしながら、それ以前の平成29年度84%や平成28年度84.8%以上の数値であり高水準である。目標にあと一步届かなかったのが残念であった。

### 3. 今後の評価に向けて

本県の文化芸術分野の共通の課題として、多くの県内団体や活動者の高齢化が顕著なことである。少子化と人口減により、活動者や鑑賞者も減少する中、新たな活動者の育成や鑑賞者の掘り起こし対策は重要である。そのためにとりアートの担う役割はますます大きくなると同時に、この課題解決に向けた鳥取県文化団体連合会加盟団体を始めとする県内文化団体に対する、さらなる支援策が求められる。

本委員会は、文化芸術の事業実施者により良い事業を県民に提供してもらうため、外部の視点から助言や改善点の指摘を行うものである。ここ数年にわたり評価対象事業の見直しのほか、評価対象を事業開催当日のみではなく、プレ事業やリハーサルなどの、制作過程や関連事業について実地検証を行って評価の材料としたり、評価シートの項目の見直しを行うなど、評価精度向上に取り組んできた。

これは、時代や環境とともに変化する社会情勢や県民鑑賞者のニーズに応える事業にしてもらうため、現場で生かせる評価となるよう、委員会として意見交換を重ねた結果であり、事業実施者におかれては、これらの指摘を受け止められ、積極的に事業改善に取り組まれていると感じている。今後も評価方法を改善していき、事業実施者と評価委員会が両輪となることで、さらなる県内の文化芸術振興につなげていくことができると考える。

また、昨年度の総合評価でも言及したが、とりアート事業全体についていえば、とりアート構想の策定から年月が経過しており、社会を取り巻く環境や鑑賞者ニーズも変化している。メイン事業および各地区事業を実施するにあたり、新たな時代に合った新たな構想を策定することも検討していく必要がある。

最後に、本稿執筆時点において、世界を震撼させている新型コロナウイルス感染拡大の影響について触れておきたい。感染拡大防止のため、県内においても多くの文化芸術公演が中止や延期をせざるを得ない状況である。これを受けて鳥取県は4月2日、無観客でのライブ配信費や開催が中止や延期された時のチラシ制作費などの支援を打ち出した。国の支援メニューがない中での全国的にも珍しい独自支援の施策であり、県の文化芸術の表現の場の確保に対する姿勢に敬意を表したい。

公演等については、このような県の支援が設けられるが、不安は公演のみではない。とりわけ伝統芸能や音楽、演劇、オペラ、ミュージカルなどの分野においては、他の演者と近い距離での発声などを伴う稽古が必要である。感染防止は人命に関することなので稽古活動の自粛もやむを得ない面があるが、自粛期間中に文化芸術活動者の練度の低下や団体の永続的な活動停止・解散なども懸念される。

文化芸術は人々の心を豊かにするために欠かせないものである。一日も早く感染拡大がおさまることを祈ると同時に、事業実施者や文化芸術活動者おかれては、通常の活動が可能となったときには県民の鑑賞ニーズに応えられるよう、それぞれ工夫して練度の維持を図り、素晴らしい作品を提供されることを切に願っている。

令和2年4月

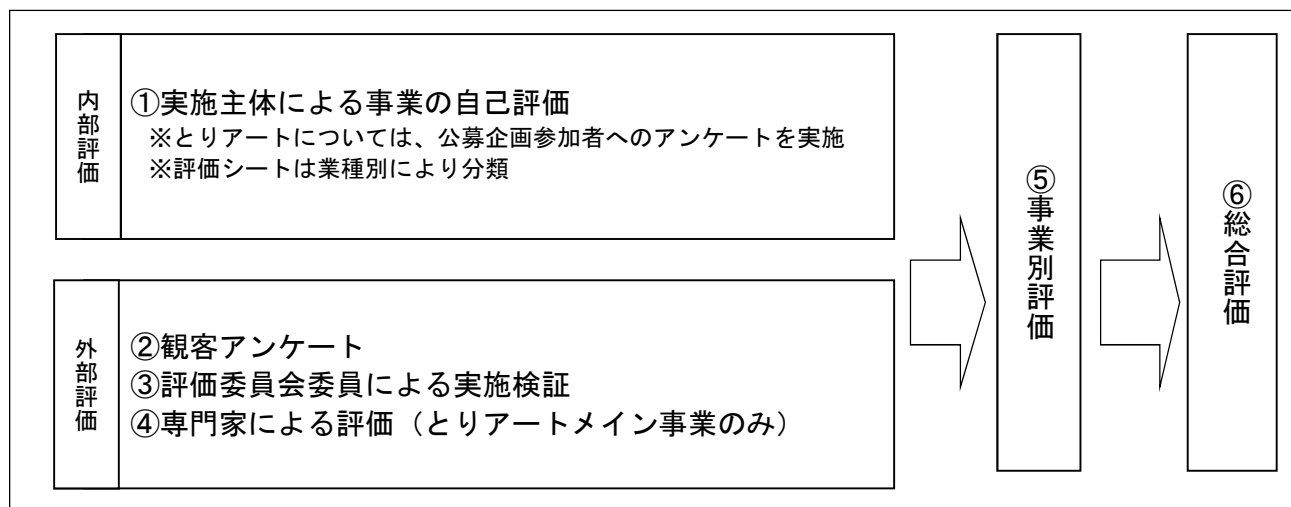
鳥取県文化芸術事業評価委員会  
会長 尾上 明

## II 実施結果概要

### 1. 実施事業一覧

| 番号 | 事業名                                    | 主体              | 団体名           | 期日<br>※ブレイベント                      | 実績<br>(目標数)        |                      |                      |                |                |
|----|--|-----------------|---------------|------------------------------------|--------------------|----------------------|----------------------|----------------|----------------|
|    |  |                 |               |                                    | 入場者数<br>[人]        | アンケート<br>配布枚数<br>[枚] | アンケート<br>回収枚数<br>[枚] | アンケート<br>回収率   | 満足度            |
| 1  | 第10回とっとり伝統芸能まつり                        | 鳥取県             | 地域づくり推進部文化政策課 | 6月30日(日)                           | 585<br>(1,000)     | 585                  | 330                  | 56.4%<br>(40%) | 100%<br>(99%)  |
| 2  | 第63回鳥取県美術展覧会                           | 鳥取県             | 地域づくり推進部文化政策課 | 9月14日(土)<br>~11月25日(月)             | 10,015<br>(10,000) | 10,015               | 3,825                | 38.2%<br>(20%) | 95%<br>(95%)   |
| 3  | とリアート2019メイン事業”<br>ゲキジョウ実験!!!「銀河鉄道の夜」” | 鳥取県総合芸術文化祭実行委員会 | 鳥取銀河鉄道祭実行委員会  | ※4月27日(土)<br>11月2日(土)<br>~11月3日(日) | 522<br>(400)       | 522                  | 266                  | 51%<br>(20%)   | 95.9%<br>(80%) |
| 4  | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・<br>とリアート2019東部地区事業     |                 | 東部地区企画運営委員会   | ※9月8日(日)<br>11月30日(土)<br>~12月1日(日) | 3,524<br>(3,500)   | 1,050                | 460                  | 43.8%<br>(30%) | 94.8%<br>(95%) |
| 5  | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・<br>とリアート2019中部地区事業     |                 | 中部地区企画運営委員会   | 10月12日(土)<br>~10月13日(日)            | 3,786<br>(5,000)   | 1,213                | 716                  | 59%<br>(40%)   | 94.4%<br>(90%) |
| 6  | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・<br>とリアート2019西部地区事業     |                 | 西部地区企画運営委員会   | ※8月3日(土)<br>11月30日(土)<br>~12月1日(日) | 1,266<br>(1,500)   | 537                  | 231                  | 43%<br>(50%)   | 94.3%<br>(80%) |
| 7  | 第41回鳥取県書道連合会展                          | 鳥取県文化団体連合会      | 鳥取県書道連合会      | 1月31日(金)<br>~2月4日(火)               | 853<br>(800)       | 853                  | 424                  | 49.7%<br>(40%) | 88.4%<br>(90%) |

### 2. 評価の体系



### Ⅲ 事業別評価

#### 第10回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）

令和元年6月30日（日） 倉吉未来中心 大ホール

#### 文化芸術事業評価シート

| 目的               | 自己評価                     |   |  | 評価委員による指標  |
|------------------|--------------------------|---|--|--|
|                  | 取組目標                     | 行動計画  | 達成度及び理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」で元気に～地域づくり～ | 地域の伝統芸能の継承・文化アイデンティティの確立 | 参加伝統芸能と地域のつながりを紹介して、その場所に行ってみたくと思える演出を行い、地域伝統芸能の舞台を通じて、出演者、鑑賞者が地域の魅力を再発見するきっかけとする。<br>/当日の観客アンケートなどによって調査 | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>演技前に地域の紹介映像と結び付けて団体紹介を行ったほか、プログラムに演目（曲）の紹介を掲載したところ、アンケートによると「伝統芸能の素晴らしさを感じた」が75%、「いろいろな伝統芸能があることを再発見した」が70%との感想をいただいた。  | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>その伝統芸能を育んだ地域を映像で紹介するのは良い取り組み。アンケートの内容からも地域の伝統芸能への理解が深まったことが分かる。<br>効果的な演出と出演者の熱心な舞台に、アンケート結果では「満足」「とても満足」とするものが計100%となったことは大いに評価できる。  |
|                  |                          | 鳥取県の地域に伝わる伝統芸能を多くの方々に知って興味を持っていた。より多くの来場者につなげ、伝統芸能ファンを広げる。  | <b>達成度：未達成</b><br>【成果】<br>来場者数は585人であった。前年度との比較では39%、倉吉で開催した平成28年度と比較すると36%の集客となり、達成しなかった。<br><br>（今年度は各出演団体にも出演の前後に客席での観覧を呼びかけたところ、90名余りの出演者も会場内で他団体の演目を観覧された。）<br><br>【課題】<br>広報の強化と演目の見直しにより、当該まつりの魅力の増大及び集客力の強化が必要である。 | <b>達成度：未達成</b><br>【成果】<br>来場者が目標に対して59%にとどまったが、600人近い入場者に県内の伝統芸能のすばらしさを体感してもらうことができた。<br><br>【課題】<br>県内文化団体の舞台の中には、本事業と同程度の予算規模で、未来中心大ホールを会場とする有料催事でも鑑賞者が900人を超えた例もある。それを踏まえと予算の中で、より効果的な広報に取り組む必要がある。本まつりの継続・発展のためにも徹底した分析と対策が必要。 |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～ | 質の高い文化芸術活動・県民への鑑賞機会の拡大   | 演目をコンパクトにまとめ、ハイライトシーンを中心とする質の高い内容とするよう努める。  | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>花魁道中を行う伊勢大神楽の「魁曲（らんぎょく）」、本物の剣を使い舞う大和佐美命神社獅子舞保存会（上砂見）の「剣の舞」など、出演団体の意向を尊重しながら、観客が楽しめる内容となるよう、時間を調整しつつ見せ場のある演目とした。アンケートによると「演目に満足した」が71%であった。  | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>鬼面太鼓を筆頭に質の高い演目も多く、例年に比べてコンパクトにまとまっていて、見やすかった。観客を飽きさせない演出・構成がアンケート結果の高評価につながっている。<br>特に満足した点を問うアンケートでは「演目」が71%あり、前回に比して63ポイント増、「演出」が48%と、同じく43   |

|                                |                       |  |   |  |
|--------------------------------|-----------------------|--|---|--|
|                                |                       |  | <p>しかしながら、「県外・海外の演目も見たい」「司会が減った」といった声も多かった。</p>   | <p>ポイント増加しており、設定した定量目標を達成した。</p>   |
|                                |                       | <p>広く県民への周知を図るため、様々な媒体を活用した広報を実施し、効果的な広報に努める</p> <p>・チラシ・ポスター・プログラム・ホームページ展開(伝統芸能まつり、アーカイブス)・SNS</p> | <p><b>達成度：未達成</b></p> <p>【成果】<br/>県政だより6月号、鳥取県中部地域みっちゃく生活情報誌くらら6月号、文化政策課公式SNS、公益財団法人鳥取県文化振興財団Arte5月号への挟み込みに加え、チラシ・ポスターの配布先を追加(伝統芸能を教えている、もしくは団体から指導を受けている小・中学校・高校、報道機関、観光案内所、商業施設)したが、達成しなかった。</p> <p>【課題】<br/>観客は高齢者層が大半であることから、高齢者がより情報入手しやすい広報を意識することが重要である。<br/>開催情報の入手については、「新聞、ミニコミ誌等」が14%下がっている他、前年度以前は10%以上であった「テレビ、ラジオ」(平成29年度16%)「チンドン屋による広報活動」(平成30年度11%)による広報を再度実施できると良いと考える。</p> | <p><b>達成度：一部達成</b></p> <p>【成果】<br/>目標に掲げた「様々な媒体を活用」した広報の実施には取り組んだ。</p> <p>【課題】<br/>様々な方法で広報に取り組んだが結果につながらなかった。新聞やテレビなどを有効に活用した広報に取り組んでほしい。<br/>幅広い世代に訴える努力を行いつつ、入場者の中心となる世代を狙う難しさもあると推察される。<br/>アンケートによると、県外などの質の高い伝統芸能を県内で鑑賞できることを楽しみにしている観客もあり、今回は県内団体のみとなったことで、集客に影響を与えた面もある。同様に本委員会で例年、効果的として評価していたチンドン屋広報も予算削減により、無くなったことも響いたようだ。</p> |
| <p>「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～</p> | <p>人材育成(指導者、後継者等)</p> | <p>若い世代に「まつり」の進行・運営に関わっていただき、興味を持ってもらい、後継者やサポーター育成に繋げていく。高校生ボランティアにイベント運営に携わってもらう。</p> <p>目標：25名</p> | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】<br/>県内4つの高等学校等及び2つの伝統芸能団体から述べ30人の学生ボランティアに参加していただいた。<br/>こうした催しに参加したいという学生がいることのみならず学校の意識の高さも窺えた。アンケートによると「係員の態度が良かった」が56%で、「学生ボランティアがよかった」との声も聞かれ、質の良い運営へつながった。また、伝統芸能へ触れる良い機会となった。</p> <p>参加校・団体<br/>湯梨浜学園高等学校、倉吉農業高等学校、倉吉総合産業高等学校、米子工業高等専門学校、和太鼓LEGEND童、打吹童子ばやし</p>   | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】<br/>高校生だけでなく、小学生のときに太鼓(打吹童子ばやし)の活動をやっていた中学生ボランティアの姿も複数あり、終演後の鑑賞者に、アンケート回収の声掛けを積極的に行っていた。<br/>高校生の参加校も複数あり、掲げた定量目標の人数を上回った。</p>  |



|    |                                  |   |   |
|----|----------------------------------|---|---|
|    | 子どもたちに参加してもらおうことで、伝統芸能への興味喚起を図る。 | <b>達成度：一部達成</b><br><b>【成果】</b><br>県内の伝統芸能を教えている学校へチラシを配布したが、アンケートによると来場者は前年度より70歳以上が16%増えており、高齢化した。<br>一方6つの出演団体のうち鬼面太鼓、逢東盆踊り、泊貝がら節の3つの団体については子どもが出演しており、出演者としての子どもの参加は例年並みだった。<br><br><b>【課題】</b><br>子どもに見せたい、若しくは子どもも楽しめるような伝統芸能を演目にするなどの工夫が必要。 | <b>達成度：一部達成</b><br><b>【成果】</b><br>出演団体のうち、半数の3団体で子どもの出演があり、それも単なる出演参加ではなく、地域の伝統芸能を子どもたちに継承している団体の姿を県民鑑賞者に見てもらえたことは良かった。<br>伝統芸能という催事の性格上、鑑賞者に高齢者が多いのは、ある意味で想定範囲である。<br><br><b>【課題】</b><br>アンケート回答者のうち20代未満の割合は3%と低迷している。本催事の性格上やむを得ない面もあるが、自己評価どおり、「子どもに見せたい」「子どもも楽しめる」企画を織り込んでいく取り組みが必要と考える。<br>子どもの鑑賞者増につなげる工夫として、演目の工夫に加えて「子どもが見たい」、「子どもに見せたい」と思わせるチラシのデザインも考慮されてはどうか。 |
| 総括 |                                  | ( 10 / 18 ) ≒ 55.6%   | ( 11 / 18 ) ≒ 61.1%   |

## 【自己評価総括】

### ○成果

アンケート回収率は例年よりも大変高く、満足度が高かった。特に鬼面太鼓・伊勢大神楽・麒麟獅子舞については特に好評コメントが多く、観客に満足していただけたものと思われる。

### ○課題

- ・従来は県外・海外の演目も含め、様々な伝統芸能を見ていただく機会となっていたが、平成30年度に行われた事業見直しの中で、県内の伝統芸能の日頃の活動を発表する場に特化したものとする事となり、予算が対前年度比35%の4,648千円（平成30年度 13,257千円）と大幅な削減となったことが大きな変更点であった。
- ・見直しを踏まえ、今回から、舞台演出・ボランティア管理等、専門的知識を要する業務のみNPOへの委託実施とし、団体交渉・演目調整・ボランティア依頼等は県が直営で行った。
- ・広報を十分に行うことができたとは言えず、例年を下回る来場者数となった。テレビ及び新聞で事前に一度も放送等できなかったほか、後日、県民より、情報はどこをみればわかるのかといった問い合わせがあったことから県内での告知が十分にできていなかったと思われる。今後、ターゲットを絞った広報方法や団体に越しいただく工夫が必要。
- ・県外・海外の演目が見たいというコメントや、さらなる充実を望む声もあったことから方策を検討する必要がある。
- ・今回初めて鑑賞回数をアンケート項目に入れたところ、半数がリピーターという結果であった。この数値を維持・向上させるよう魅力の増進が課題。

- その他事業に関する意見、感想  
特になし

## 【評価委員総括】

### ○成果

- ・ 予算が約3分1に減額される中で、定量目標においてはアンケート回収率、観客満足度ともに昨年実績および設定目標を上回った。特に500人以上の来場者がある催事でのアンケート回収率が半分以上というのは極めて高く、その高い回収率での「満足度」が100%となったことは素晴らしい成果である。
- ・ イベントの重要な要素である演目および演出についての満足度は極めて高く評価できる。
- ・ 休憩中の和楽衣箱の盛り上げ演出は、観客を楽しませ、長い休憩時間でも飽きさせない工夫で良かった。

### ○課題

- ・ 今回の最大の課題は入場者数の大幅な減少であり、この対策が必要である。過去3年間はいずれも入場者数が1,500人台であった。今回は585人とどまったが、入場者の評価は高いことから、いかに入場者を確保していくかが次回以降の取組の中心となる。
- ・ 入場者が定量目標を大幅に下回った要因としては、予算削減に伴う広報費の減額でPRが行き届かなかったことや、鑑賞者アンケートの声にもあるように、県外・海外の質の高い演目の上演がなかったことで、それらを楽しみにしていたリピーターに来場を敬遠されたことも影響していると思われる。海外団体は無理としても、せめて質が高い県外団体の伝統芸能の鑑賞機会を県民に提供できないか。
- ・ 広報面においては、例年に比べてチラシやポスターを目にする機会が少なかった。チラシのデザインも例年と大きく異なり、本事業とは違う別の伝統芸能のチラシのように感じた。
- ・ 地域の紹介映像について、スクリーン前に大太鼓が設置された演目では映像の一部が見えなかった。また赤碕の「碕」が赤「崎」(山へん)になっている誤字もあった。地域の紹介なので地名の誤字には注意してほしい。

### ○その他事業に関する意見、感想

- ・ 鬼面太鼓はとても質が高く、アンケートの記載内容でも高評価であった。県内にもこのような素晴らしい団体があることを初めて知った。伊勢大神楽も質が高く、刀を使った独特の逢東盆踊りも子どもに伝承されていて良かった。
- ・ 予算の関係か、司会が一人になったが、むしろシンプルで良かったように思う。

第63回鳥取県美術展覧会（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）

令和元年9月14日（土）～11月25日（月） 県立博物館ほか

文化芸術事業評価シート

| 目的                      | 自己評価                  |   |   | 評価委員による指標  |
|-------------------------|-----------------------|---|---|--|
|                         | 取組目標                  | 行動計画  | 達成度及び理由   | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～        | 出品拡大、質の高い作品を鑑賞する機会の提供 | 出品申込書等を従来の紙媒体での配布に加えて、WEBからダウンロードできることで出品者の利便性向上につなげ、出品数の拡大を図る。 | <p><b>達成度：一部達成</b></p> <p>【成果】<br/>一般応募 480 点、無鑑査作家等作品 115 点の合計 595 点の出品があり、昨年 591 点（一般 476 点、無鑑査作家等 115 点）より増加した。<br/>WEB からのダウンロードは 41 点（出品数の 6.9%）となり、出品者の利便性向上につながった。</p> <p>【課題】<br/>県内で創作活動を行っているがこれまで県展に出品しなかった者や学生へ出品を促すなど、新たな層の掘り起こしを行い、出品数の増加を図りたい。</p> | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】<br/>目標数値にわずかに届かなかったが出品数の拡大への努力が伺える。</p> <p>【課題】<br/>紙媒体・WEB からのダウンロード双方の出品申し込みが可能になったことの周知徹底が必要である。</p>                 |
|                         |                       | 無鑑査作家の作品、一般応募作品の中から審査によって入選となった作品を展示することで、質の高い作品の鑑賞機会を提供する。     | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】<br/>審査により入選となった一般応募作品 318 点、無鑑査作家等作品 115 点の計 433 点を展示し、良質な内容の鑑賞機会を提供することができた。<br/>来場者アンケートによる満足度（とても満足、満足）は 95.0% となり、目標値を達成した。</p>  | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】<br/>作品の内容、目標数値とも十分達成している。<br/>新聞紙上も「県内作家の感性光る」と県展の質の高さを評している。</p>   |
| 「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～ | 鑑賞者の理解促進と若年層の鑑賞促進     | 素材や技法をキャプションに明示することで魅力を高める。                                     | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】<br/>今年度からキャプションに素材や技法を表示（出品者の任意記載）することで、作品の理解向上につなげることができた。<br/>取組に対するアンケートの回答率は「よくわかるのよい」が 65.2% となった。</p>  | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】<br/>理解促進への努力の成果が認められアンケートの目標数値も達成している。</p>  |
|                         |                       | 会場内の作品（出品者が許可したもの）を撮影可能とすることで、SNS による若年層向けの発信を促し、来場者の増加を図る。     | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】<br/>会場内の作品の写真撮影ができることは来場者からの評価も高く、SNS 発信により来場者の増加につなげることができたと考える。<br/>20 代以下の鑑賞者は 6.5% となり、目標値を下回った。</p> <p>【課題】<br/>来場が少ない 20 代以下の層への効果的な発信を行うなど、一層の来場者数の増加を図りたい。</p>   | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】<br/>写真撮影の許可や SNS の活用は新たな取り組みで評価できる。スマホが普及した現在、機に乗じた取組だった。</p> <p>【課題】<br/>20 代以下への効果的な情報提供が不足していた。効果的な発信の検討をお願いしたい。</p> |

|                  |                   |   |   |   |
|------------------|-------------------|---|---|---|
| 「アート」で元気に～地域づくり～ | 鑑賞者の関心度向上と県展の魅力発信 | 鑑賞者による投票で「あなたが好きな作品賞」を決定する来場者参加型の取組を行うことで、県内各地での開催を盛り上げる。 | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>来場者アンケートによると、観覧者投票は真剣に作品を観る機会になった、より興味を持って作品を観ることができたなどの評価があり、来場者への魅力向上につながったと考える。アンケート回収率は目標値の約2倍の38.2%となった。  | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>観覧者投票は新たな取組で評価でき、アンケート回収率の向上につながっている。また、参加型の取組として、開催を盛り上げた。          |
|                  |                   | 県内のみならず、県外でもPRを図ることにより、県外に向けて魅力を発信する。                     | <b>達成度：一部達成</b><br>【成果】<br>日本海新聞と連携することにより新聞を活用した情報発信を行うことができた。県内観光団体と連携した高速道路サービスエリア(加西SA下り)でのチラシ配架や全国版専門紙(美術新聞)への情報掲載などにより、県外者向けにもPRを行った。県外入場者の割合は7.8%となり、目標値を下回った。<br><br>【課題】<br>継続的に県外向けにもPRを行うことで、県展の魅力発信を図りたい。 | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>県外入場者への発信の努力は認められる。<br><br>【課題】<br>初めての取組で、県外の方々に浸透していない。継続がカギとなる。 |
| 総括               |                   |   | (13/18) ÷ 72.2%   | (15/18) ÷ 83.3%   |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・ 定量目標としているアンケート回収率、観客満足度、入場者数ともに目標値を達成することができた。
- ・ 特にアンケート回収率は38.2%となり、昨年19.8%から飛躍的に伸びた。観覧者投票の実施(アンケート用紙兼投票用紙)や来場者への積極的な呼びかけによる取組が寄与したと考える。
- ・ また、入場者数は10,015人となり、目標値10,000人を超え、昨年9,573人を大きく上回った。1万人を超える来場者は、18年振りに1万人を超えた一昨年に引き続き直近10年間で2回目となる。来場者による作品の写真撮影を可能とすることでSNS発信ができたことや観覧者投票などの新しい取組が奏功したと考える。

(参考) 県展における新たな取組

- ・ 出品できる者として「県内の美術団体に所属する者(県外居住者)」を追加した。
- ・ 出品者が希望しない場合を除き、展示会場における作品の写真撮影を可とした。
- ・ 観覧者投票による「あなたが好きな作品賞(各部門1点)」を創設した。
- ・ 作者コメント(記載は任意)を作品の横に掲示することとした。
- ・ キャプション(作品の題名等が表示されているカード)に、作品の素材・技法などを記載(記載は任意)することとした。
- ・ 無鑑査賞(無鑑査作家(人間国宝を除く)の出品作品の中から各部門1点)を創設した。

### ○課題

- ・ 平成24年度より年々減少していた応募数に歯止めをかけることができたものの、目標としていた600点に僅かに及ばなかった。応募者の高齢化、固定化が主な原因と考えられるため、これまで県展に出品していなかった者へ出品を促すための取組を検討していきたい。
- ・ 来場者アンケートにおいて、キャプションの文字拡大を希望する声が多くあったことから、誰もが見やすいレイアウトを検討していきたい。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・今年度から新たに取組んだ観覧者投票や作品の写真撮影を可能としたことは、来場者アンケートにおいて良い取組みとする評価が多く、一定の成果があったと考える。

## 【評価委員総括】

### ○成果

- ・定量目標の3点は何れもクリアした。新しい取組の成果が出た。
- ・アンケート内容は概ね良好であった。
- ・県展「あなたが好きな作品賞」を創設し、参加型の観覧者投票の実施は新しい県展の未来の扉を開けた。県展後の新聞紙面で受賞者表彰の記事を掲載するなど、反響は大きかった。
- ・スマホが普及した現在、作品の写真撮影の開放と、SNSにアップを可能にした試みは、効果的な取組であった。
- ・ギャラリートークは受賞の理由がよくわかり、専門家の目の付け所が理解できた。

### ○課題

- ・観覧者投票は「来場者が好きな作品」だが、同じ作品に投票する懸念がある。
- ・写真撮影について、後日著作権の問題が発生するリスクがある。
- ・キャプションの字が小さい、ガラス越しに見えづらい。手書きは、読みづらい等々の声があった。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・鑑賞者のマナーを徹底してほしい（雑談、電話など、合わせて看視者が注意喚起するとか）。
- ・県外入場者の割合が増えていないが、県内入場者が増加すれば県外入場者の割合は減少する。割合の比較ではなく、入場者数の比較にしてはどうか（今回も前回に比べ増えていると思うが）
- ・ギャラリートークが2か所同時に始まり、まごついた。午前と午後に分けてもらえばありがたい。
- ・鳥取会場のギャラリートークは今年も多く来場者が集まりにぎやかだった。
- ・昨年度の県展の評価委員総括のその他事業に関する意見、感想に「入場された方に県展への参加意識をより実感してもらうために、観覧者の投票による賞を創設することを検討しては如何か」と提案していたが、今年度それを採用していただき有難い思い。今後、観覧者投票結果をどう扱うか検討をお願いしたい。
- ・芸術をテーマとしている割には、チラシが地味。昨年の県展賞作品あるいは観覧者投票の受賞者の作品をチラシに掲載する工夫を提案したい。
- ・受賞者の作品を缶バッジにするなどして、スタッフが身に着けるとか、予算と著作権者が許せば、記念品に来場した小学生以下の子供たちに配るとかのイベントが同時に開催されてもよいと思う。
- ・県展で入賞した作品が鳥取県専用の封筒等に、限定的（枚数）印刷され、使用されることが出来れば出品者の励みにもなる。そういった、県民の芸術を県が日常的に使用活用できるシステムの構築が必要ではなかるうか。

第17回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2019メイン事業「鳥取銀河鉄道祭」鳥取公演  
ゲキジョウ実験!!!「銀河鉄道の夜→」(鳥取銀河鉄道祭実行委員会)

令和元年11月2日(土)～3日(日) とりぎん文化会館他

文化芸術事業評価シート

| 目的                      | 自己評価   |   |  | 評価委員による指標  |
|-------------------------|--|---|--|--|
|                         | 取組目標   | 行動計画  | 達成度及び理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～        | だれもがアートに親しむことができる機会の提供、県民のアート活動の推進               | 2年に渡るリサーチ事業やケンタウル☆自由市場を同時開催することにより、従来の舞台芸術関係者にとどまらず幅広い参加者(出演者、関係者、観客)の獲得を目指す。 | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>定員を上回る観客(定員は480名、実数522名)に恵まれたほか、ケンタウル自由市場(出店数両日合わせて57店舗)へ訪れた人も多く、概ね達成された。   | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>県民から出演者を募ったことで、年齢や性別、障がい、舞台経験の有無などにかかわらず幅広い参加者があったよう。行動計画に掲げた「幅広い参加者」を実現した。ケンタウル自由市場も賑わい、作品世界構築に貢献していた。   |
|                         |  | 西部、中部、東部の各地区事業と連携し、一般市民参加型のワークショップを複数回開催する。また作品出演者も県内公募とする。                   | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>出演者には西部、中部地区のワークショップがきっかけで参加する人もおり、地区を超えた交流が生まれた。<br><br>【課題】<br>遠方からの参加ということで練習機会が限られてしまうほか、交通費などの負担が大きく、今後の課題である。 | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>西部、中部でもワークショップを複数回開催し、県全体から参加者を集めることができた。一般参加型ワークショップで取り組んだ内容が本公演に反映されており、参加者同士の交流も深まることで舞台に活気が生まれた。<br><br>【課題】<br>行動計画に掲げた「西部、中部、東部の各地区事業との連携」が十分だったとは言い難い。鳥根県からの参加もあったと聞くが、交通費などの補助もあってもっと練習に参加しやすい。 |
|                         |  | チラシやポスターのほか、ウェブやSNS等を活用して、積極的かつ魅力的な情報発信に努め、より多くの来場を目指す。                       | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>Facebookを中心とした広報活動やウェブサイトを立て上げたことで若年層の参加を促すことができた。また、自由市場参加者はほぼウェブにより集まっており、今後も積極的に活用する必要がある。                       | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>ウェブサイトは、しっかり作り込まれており、頻繁に更新され、情報を広めるための努力が見られた。また、自由市場の参加者がウェブで集まっているところは、大いに評価できる。今後も積極的にSNS等を活用してもらいたい。  |
| 「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～ | 経験者、未経験者を問わず、良質の作品作りに関わる機会をつくることでアートに関わる人材を育成する。 | 中学生以下の料金を無料とし次世代の育成に繋げる。大人の料金も低価格に設定し、多くの人に見ていただく工夫を行う。                       | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>予想を超える多くの方に観ていただいた。<br><br>【課題】<br>移動型ということもあり、観客数を限らざるを得なかった。メ   | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>客席は満席で、目標を上回る来場者があった。観客には子どもの姿も多くみられた。<br><br>【課題】<br>予算規模と比べると、鑑賞でき  |

|                  |              |   |  |  |
|------------------|--------------|---|--|--|
|                  |              |   | イン事業としてはより多くの人に観てもらいたいという声もアンケートでは上がっている。  | る客席数が圧倒的に少ないのが残念。当日券を求めたが満席で帰られた人もあったようだが、あの客席設営や動線なら、もう少し席数を増やせたはず。メイン事業としては、より多くの県民に鑑賞してほしい。   |
|                  |              | 少年少女合唱団、大学生、留学生など様々な団体に声かけをし、幅広い世代に参加していただく。                | <b>達成度：概ね達成</b><br><b>【成果】</b><br>小学生から 70 歳代まで幅広い年齢層かつ性別、国籍、障がいの有無、経験にかかわらず様々な人に参加していただくことができた。ロコミやワークショップの複数開催などの効果が大きかった。<br>また県立図書館における展示やコラボレーションを展開し、劇場周辺の地域へと波及することができた。<br><br><b>【課題】</b><br>団体への声掛けについては知り合いを頼らざるを得ないところがあり、偏りがあったことは否めない。 | <b>達成度：達成</b><br><b>【成果】</b><br>参加者の幅広い年代や舞台経験、国籍、障がいの有無を問わず、多様な参加者で上演された。<br>団体への声掛けの偏りを課題としておられるが、多様性を実現しており、課題として挙げるほどではないと考える。   |
| 「アート」で元気に～地域づくり～ | 鳥取県のアートの魅力発信 | リサーチ事業や県内各地でのワークショップ事業を通じて、見えてきた鳥取の暮らしの豊かさを作品であらわすよう努める。    | <b>達成度：概ね達成</b><br><b>【成果】</b><br>リサーチの展示はそれ自体が映像展示として独立したクオリティを有しており、鳥取の魅力を伝える内容になっていた。映像は今後上映会を改めて開催する他、ウェブサイトなどを通じて公開していく予定。<br><br><b>【課題】</b><br>ゲキジョウ実験!!!との関連をもう少し作りたかった。また事前に展示などを行うことで出演者にも興味、関心が広がるだろう。                                    | <b>達成度：概ね達成</b><br><b>【成果】</b><br>質の高い映像展示が並び、2年間の成果が見えた。今後も積極的な上映会の開催に期待したい。<br><br><b>【課題】</b><br>クロージングイベントに参加して初めてリサーチ事業の内容が分かったが、本編公演（ゲキジョウ実験!!!）との関連性がやや希薄であった。鳥取の暮らしの豊かさを表すという行動計画は、受け手によってさまざまな受け取り方をすることで、達成するための計画としてはやや抽象的であったように感じる。 |
|                  |              | 既存の劇場公演の形にとらわれず、プラネタリウムの使用や実験的な試みを行うことで、県外からも注目されるような試みとする。 | <b>達成度：概ね達成</b><br><b>【成果】</b><br>実験的な試みとして新聞等で報道された他、兵庫、島根、岡山、東京など県内外から（アンケート回収内では 31 件）多くの観客の来場を促すことができた。  | <b>達成度：概ね達成</b><br><b>【成果】</b><br>プラネタリウムでの米子公演は、本編に負けず劣らずの魅力的なものであった。本公演に内容が反映された倉吉のワークショップなど、既存の劇場公演にとらわれないスタイルで、本編には実際に県外からの来場  |

|    |  |  |  |
|----|--|--|--|
|    |  | <p>【課題】<br/>今回に関しては鳥取ジャズや木のまつり、鳥の演劇祭などの連動も影響していると感じている。今後、それぞれのイベントが協力して広報活動を行っていく必要がある。</p> | <p>者があった。アンケート全回収数 266 件のうち県外者が 31 件あり、割合で計算すると 11.6%、つまり 1 割以上が県外から来場したと推察できる。</p> <p>【課題】<br/>この試みが県外から注目される要因になっているのかは不明。事業の魅力伝える広報活動は、幅広く根気よく行っていく必要がある。</p> |
| 総括 |  | ( 17 / 21 ) ÷ 81.0 %   | ( 17 / 21 ) ÷ 81.0 %   |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・取組計画はほぼ達成できた。とりわけ、プロのアーティスト(門限ズ)が先導するだけでなく、県民から参加した出演者が声を上げながら共に作品制作を行う積極性を発揮することができ、演じる側も観客にも満足度が高い内容となった。参加者の積極性は門限ズからも大いに評価された。
- ・課題はあるが、劇場の使い方、作品制作の仕方など実験的かつ画期的な試みを行うことができた。
- ・日本国内全体の文化事業が縮小していく中このような試みが人口最小県鳥取から発せられる、しかも県民劇であることを目標に企画したが、主体的に芸術文化活動に取り組む鳥取の人々を見いだすことができた。また、出演者同士のつながりを生み出すことができた。

### ○課題

- ・ワークショップを展開し、その中から作品を創り出していくことを試みた企画のため、作品完成図の予測や進路を焦点化できないところがあり、そのことが、作品創りを本格的に進めるべき本年度の予算削減につながり、計画を見直さざるを得なくなった。ワークショップの時間や回数を減らしたり、倉吉公演をワークショップに変更せざるを得なかったこと、映像とのコラボレーションができなかったこと、ウェブ上での広報活動の縮小など思いは残った。
- ・一方で、計画の見直しは、限られた滞在日数の中での門限ズ(アーティスト)や、ワークショップ参加者、美術担当の集中力とエネルギーを生み出し、感動的な作品が完成した。ケンタウル自由市場の出店、映像展示を含め限りなく大きな、ある意味予測不可能な企画「ゲキジョウ実験」は結果的には企画者の想像を超えるものになった。
- ・今回、参加者の満足や、今後へつながる企画としての結果は得られたが、企画段階で、いかに分かりやすい計画を示すことができるかが課題として残った。この課題の解決は難しいが、計画通りの予算を獲得するだけでなく、一緒に企画を進めようとする実行委員、アーティスト、参加者などの仲間たちにとっても必要な事であった。
- ・地区事業との連携を目指し、地区事業への働きかけもかなり行ったが、これは最終的にはかなわなかった。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・メイン事業部会より作品の内容がわからないとの指摘を度々受けたが、ワークショップで創っていく企画のため、出演者の募集が終わっていない段階での説明が難しく、努力はしたものの対応しきれなかった。部会には、公募で選んだ団体と一緒にメイン事業を作り上げていくという思いで、実際の稽古や制作風景を見ていただくとありがたいと思った。
- ・経験ある方々のアドバイスやご指導によって、今回のような実験的な新しい企画を試みたいという団体にもチャンスを広げ、企画者の育成にまで力添え下さったら県民の芸術参加の道もより広がると思われる。そして、今回のような前例のない、無謀にも思える企画や、斬新な企画が、経験不足でと躊躇うことなく実現される「とりアート」が発展的に続くことを願いたい。



## 【評価委員総括】

### ○成果

- ・年齢、性別、障がいの有無を問わず様々な人が参加し、プロのアーティストと共に一つの作品を作り上げたことは評価に値する。  
作品の内容についてはアンケートにも「難しい」という感想がいくつか見られたが、理解できないながらも何か感じる場所があったり、不思議な雰囲気を楽しんだり、好意的な意見がほとんどであった。このようにまさに「実験」という名称がふさわしい前衛的な試みが鳥取で行われてこと自体が大きな成果である。
- ・「メイン事業といえば、プロセニウムホールで上演され、来場者は客席で鑑賞する」という概念にとらわれず、従来のメイン事業のあり方に一石を投じるものとなった。「ゲキジョウ実験」の名にふさわしく、プラネタリウムでのアプローチやワークショップで創られた場面が本編で生かされるなど、自由で芸術的な試みがなされ、画期的なチャレンジが舞台を成功へと導いた。一般県民出演者の積極性も、ワークショップや本編公演を通じて、見ている側にもひしひしと伝わってきた。
- ・文化芸術活動者以外には「芸術」という言葉は、何やら難しそうだとか、自分に関わりはない、などと敬遠されがちな面があるが、本メイン事業の参加者（出演者）は、舞台経験のない人も「楽しんでやっている」のが感じられて、とても良かった。
- ・舞台発表では、宮沢賢治の言葉の世界を楽しみながら、時に美しく時に悲しく物語が進む様が鑑賞していて面白く、型が無いながらも見応えのある作品に仕上がっていた。
- ・周りの鑑賞者からも「意味は良く分からないけれど、面白くて不思議な世界だった」という声が聞かれた。

### ○課題

- ・これまでのメイン事業でも共通の課題であったが、「公演が成功したのでOK」という、やりっぱなしではなく、今回培った県民出演者の活動意欲やエネルギーを今後の県内の文化芸術活動につなげるにはどうすべきかが重要である。事業実施者の総括の「課題」中に「今後へつなげる企画としての結果は得られた」とあるが、参加・育成した人材などの成果を今後はどうつなげるのか、具体的なものが分からない。
- ・来場者数の目標は達成したが、メイン事業として、総額では大きな予算をかけているものであり、席数の工夫などで、より多くの県民に鑑賞してもらいたかった。
- ・試行錯誤があったためだとは思うが、参加者アンケートによると、当初、参加者に呼びかけられたものと異なる形で進められた点があったようだ。（必須だというワークショップに都合をつけて参加したのに、不参加だった人に役が割り当てられたなど、不公平感を感じたなどの声がある）。配役は適性や能力を見て決められることではあるが、呼びかけ時の設定は守るなど、公平さは守ってほしい。
- ・自己評価にもあったが、メイン事業としては設定鑑賞者数が少なかったように感じる。素晴らしい作品であるがゆえに、より多くの人が鑑賞する機会を持つための工夫があればさらによかったと思う。
- ・移動型の舞台で、足の悪い高齢者からは、「ついていくのがきつい」という声も聞かれた。車椅子の対応などもあったと良かった。
- ・客席が通常の劇場型舞台と比べると、圧倒的に少ないのが多くの鑑賞者の機会を奪うことにもつながり、もったいないと感じた。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・最初、受付の場所が分からず、とまどった。
- ・メイン事業といえば多額の予算をとって1本のを仕上げるというイメージがあるが、本事業では、中小規模のものを県西部、中部でも開催し、全県的な広がりを実践した。これによって中程度の予算と規模の公演を2~3本上演する各地区でのメイン事業（かつての中規模事業クラス）という方法も、メイン事業の選択肢としてあるのではないかと考えさせられた。今後のメイン事業の在り方を検討する上で、良いきっかけとなる公演となった。それが実現すれば事業実施者の総括「意見・感想など」に記載がある「実験的な新しい企画を試みたい」という団体にもチャンスを広げ、企画者の育成にまで力添え下さったら県民の芸術参加の道もより広がる」ことも可能ではないだろうか。
- ・内容が「難しい」という意見があったことについては、個人的には内容をすべて理解する必要はなく、それぞれが思い思いに自由に楽しむことができればそれでよいと思う。ただ「とりアート」という枠組みの中で行うのであれば、子どもや普段演劇に接していない人達への歩み寄りも必要だったかもしれない。
- ・台本から市民と作り上げていくスタイルは、完成形が見えにくいだけに非常に難しかったと思う。リサーチ事業など、巻き込みも多かったことも評価できる。幅広い企画で鑑賞者を魅了したメイン事業と呼べるにふさわしい素晴らしい内容だった。

第17回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2019 東部地区事業（東部地区企画運営委員会）

令和元年11月30日（土）～12月1日（日） とりぎん文化会館

文化芸術事業評価シート

| 目的                      | 自己評価                                 |  |  | 評価委員による指標  |
|-------------------------|--------------------------------------|--|--|--|
|                         | 取組目標                                 | 行動計画   | 達成度及び理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～        | だれもがアートに親しむことができる機会の提供               | 自由に行き来できる空間（とりぎん文化会館フリースペース⇄展示室）に企画全般を集約し、誰もが気軽に多様なアートに触れる機会を提供する。             | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>展示室入口を開放して、フリースペースと一体化し、会場全体を気軽に周遊できる空間を作った。また、誰もが鑑賞できるステージイベントやアート作品展示、ワークショップ等を集約することで、多様なアートに触れる機会を提供した。                             | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>ほぼワンフロアにステージやワークショップ等を配置し、まとまりのある空間でイベントを実施できた。<br>【課題】<br>飲食スペースが2か所に分かれて配置されていて不便と感じられたほか、昼時の混雑時にはステージとワークショップ間の動線が十分確保できていない状況がみられた。 |
|                         |                                      | 多様なジャンルの文化芸術の鑑賞・体験の機会を提供することで、アートを通じて、性別・年齢・障がいの有無・国籍に関わらずあらゆる人たちが交流できる事業を目指す。 | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>伝統芸能、日本画、演劇、多様なスタイルの音楽・舞踊、様々な作品展示、ワークショップを健常者・障がい者・外国の方などが一体となって出展、体験、鑑賞し、幅広い交流を図ることができた。また、今年度からステージイベントにおいて、手話同時通訳を取り入れ、環境の整備を図った。    | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>多様なジャンルの展示やパフォーマンスがあり幅広い世代に楽しめる内容であった。「アートピアとっとり行動指針」を受けて、手話同時通訳を実施した取り組みは評価できる。  |
| 「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～ | 若年層、実施者、鑑賞者などの事業支援者の育成・拡大及び育成した人材の活用 | 地域や教育機関と連携し、これからの鳥取の文化芸術を担う若年層（子ども・学生）の出演・参加・来場を促すことで、地域の文化を支える人々の育成を目指す。      | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>鳥取湖陵高校、鳥取工業高校、鳥取城北高校、智頭農林高校、倉吉農業高校、鳥取大学、鳥取ジュニアオーケストラ等、若い世代の奏者やパフォーマー、クリエイターなどの出演・参加を通じて、育成の一旦を担った。相乗効果として、子ども・学生の来場にも繋がった。              | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>地域の高校や大学など若い世代の出演者も多く、それに付随して同世代や家族などの観客の来場により活気に満ちた会場となった。   |
|                         |                                      | 地元企業や商業施設、また、県内外で活躍するアーティストなどの連携により、地域のアートを支える支援者の拡大を目指す。                      | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>地元で芸術的な「けん玉」を製作する企業とコラボして、ワークショップと展示を行った。また、イオンモール鳥取北店の協力のもと、鳥取県との共同により県民の日ととりアートがコラボしたイベントを行った。新たな企業や団体が参加することにより、アートの輪、支援者を広げることができ | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>これまでの継続した取組に加えて地元商業施設におけるイベント行ったほか県内企業の出店により県内の文化・芸術に触れる機会の拡大に寄与した。   |

|                  |  |   |   |   |
|------------------|--|---|---|---|
|                  |  |   | た。<br><b>【課題】</b><br>地区イベントを発展させていくためには、支援者・理解者のさらなる拡大が必要であり、そのためにも様々な機会、方法で広く周知していかなければならない。   |   |
| 「アート」で元気に～地域づくり～ | 一流のアーティストに触れる機会や伝統文化等を地域資源として再認識できる機会の提供 | 第一線で活躍する県内在住のアーティストによる演奏や作品の鑑賞・ワークショップによる体験を通して、来場者に一流のアーティストに触れる機会を提供する。 | <b>達成度：達成</b><br><b>【成果】</b><br>日本画の綾木いづみ先生の作品展示と日本画ワークショップを行ったことは、地区イベントとして、一流のアーティストに触れる機会を提供した意義は大きいと感じる。小ホール「鳥取の星コンサート」では、鳥取を拠点に県内外で活動する若手音楽家を起用し、郷土のアーティストを周知した。 | <b>達成度：達成</b><br><b>【成果】</b><br>レベルの高いアーティストの作品や演奏に接する機会の提供がなされた。日本画のワークショップも定員を満了し、参加した方には日本画の良さについてインパクトを与えているように感じられた。 |
|                  |  | 県内の郷土芸能・文化に触れる機会を提供することで、その魅力を再発見するきっかけとし、地域文化の活性化を目指す。                   | <b>達成度：達成</b><br><b>【成果】</b><br>麒麟獅子舞、和太鼓、傘踊りなど、鳥取県の財産である郷土芸能に親しむ機会を提供し、地域文化の魅力を発信した。また、演じた高校生や大人たちにとっても活動の理解を広げる場となった。   | <b>達成度：達成</b><br><b>【成果】</b><br>県内の著名な郷土芸能が演じられ、出演した高校生たちも自身の活動を発信する良い機会にもなった。  |
| 総括               |  |   | (17/18) ≙ 94.4%   | (17/18) ≙ 94.4%   |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・ステージイベント、ワークショップ、作品展示、インスタレーション、フード、広報物等、すべてクオリティの高いものを揃えることができた。
- ・あいサポートの展示も作品のレベルアップはもとより、まとまりもよくなり、今後も力をいれていくべき空間になりつつある。
- ・若者のステージや会場のお客様も一緒にできる企画もあり盛り上がった。ワークショップでは、新たなものや一流のアーティストに参加していただき、様々な作品に触れる機会を作ることができた。
- ・2日間ともに平均した集客があり、地域の文化芸術が交流する場として、全体的に進展したと思う。
- ・アンケート提出に対して、東部地区オリジナルの缶バッジとうまい棒というユニークなプレゼントを用意した結果、昨年度の倍以上のアンケートを回収することができた。
- ・実施者へのアンケートにおいて、無回答1名を除いたすべての方(37名)がとても満足または満足と回答しており、出演者・出店者の方々からも評価を得ている。
- ・準備、撤収作業が効率よく行えるようになった。

### ○課題

- ・これだけ素晴らしいイベントを十分に事前広報することができなかった。
- ・今後もアートを通じて、すべての世代・障がいの有無・性別を越えた空間づくりを行っていきたい。
- ・県内外にて活躍するクリエイター、演者の継続招致と、県内企業の協賛獲得に取り組みたい。
- ・フードは寒い中、外での出店もあったので、スペースの問題もあるが、館内であればと思う。外で出店する場合は、目のつきやすい高さや場所に看板の設置が必要である。
- ・車いすやベビーカーでの来館者に対して、わかりやすい案内表示や導線を確認しておく必要がある。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・多様なジャンルの企画、食ブースがあり、長時間滞在し、楽しむことができる内容になったと思う。昨年より食のジャンルが拡大し、温かい飲食物も提供できたことはよかった。
- ・集客のことからも他地区のとりアートイベントと日程が重ならない日がよかったと思う。
- ・さらなる集客や周知を図るために、大ホールを使用する県民主催の公演と連携することも必要である
- ・外の食ブースで出店された山田三毛猫商店さんの「(自分の猫の着ぐるみに対して)とりぎん文化会館から出てきた人はテンションが高くて自分の姿にすごくポジティブに反応してくれるが、何も知らずに歩道を歩いている人は冷ややかに遠巻きに見ている」というコメントが、とりアートの立ち位置を象徴しているような気がする。

## 【評価委員総括】

### ○成果

- ・定量目標として掲げた「アンケート回収率」、「観客満足度」及び「入場者数」は、いずれも目標を達成したと評価できる。
- ・実施者アンケートにおいても、回答が得られた 38 人中無回答の一人を除き満足或いはとても満足と回答しておりイベントの企画・運営が円滑に行われたものと評価できる。  
また、観客アンケートにおいても幅広い年代にバランスよく支持されていることが伺える。

### ○課題

- ・イベント自体がとりぎん文化会館という建物の中で開催されているために、会場に入るまで例えば幟ばたなどの外部から見て「とりアート」をやっていることがわからない。通行者や車で通りかかった者などが入館してみたいと感じる演出を行ってイベント感を醸成する取組が望まれる。
- ・集客面で、昨年に比べると小さな子どもの数が少なく感じた。子どもが楽しめる企画や体を使った WS、デジタルコンテンツなどの話題性のある取組を期待したい。
- ・また、観客アンケート結果にもあるように宣伝不足との意見もみられる。  
これまで継続実施している PR 活動に関する取組のさらなる充実とともに出展・後援者に対する支援拡大を望む。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・ステージでの演目実施後の演者や観客に、他の演目やワークショップでの体験などに興味を持ってもらうような工夫も必要である。
- ・ステージでの演者の一部でも小ホールでスポットライトを浴びる体験ができるチャンスを期待したい。
- ・地元企業とのコラボによるけん玉展示はユニークな取組で数量限定でも購入ができるとよい。
- ・小ホールでの「鳥取の星コンサート」は、観客が少なく残念な状況であった。会場をいっぱいにするため、入場を無料としてはどうだったか。

文化芸術事業評価シート

| 目的               | 自己評価                   |  |  | 評価委員による指標  |
|------------------|------------------------|--|--|--|
|                  | 取組目標                   | 行動計画   | 達成度及び理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～ | だれもがアートに親しむことができる機会の提供 | 誰でも気軽に鑑賞できるオープンスペースでの企画を中心に、各会場での一般の方や障がい者の方のステージ発表や展示、ワークショップなど幅広い文化芸術分野の企画を実施することで、県民誰もが参加しやすく、気軽に楽しめるイベントを実施する。 | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>ほぼ全ての企画を1階を中心にレイアウトすることで各企画の場所をわかりやすくし、統一感を出すことができた。また、昨年度、課題であったワークショップとステージ企画の場所が近いことによる音の問題も、場所を離すことにより改善し、幅広い様々なイベントを、気軽に鑑賞・参加していただくことができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急なプログラムの一部中止、時間オーバー、同ジャンル団体の複数出演による出演時間や着替・荷物置き場についての不満の声があがった。</li> <li>・出演団体とのコミュニケーションを密にし、信頼関係を構築しながら、各要望への対応と委員会の意向とのバランスを取り協調するとともに同ジャンルの団体の数を制限することも必要である。</li> <li>・幅広い年代が楽しめる企画を意識したが、青少年の興味を喚起する企画の充実を今後さらに検討したい。</li> </ul> | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>絵画コンクール、ワークショップ、朗読、不条理劇など、子供から年配者まで幅広い年齢層を対象とした、バラエティ豊かな企画が実施されていた。多くの企画を1階に集中することで、オープンかつ移動の利便性も高いレイアウトになっていた。昨年の評価で指摘したワークショップとステージ企画の場所による音の問題も改善されており、参加者が気兼ねなく楽しめるようになっていた。</p> <p>※出演団体との連絡不足等は改善点ではあるが、この項目の課題ではなく、「自己評価総括」の「課題」であろう。</p> |
|                  |                        | 幅広い年代が楽しめるクイズラリー、親子世代でも楽しめる子ども向け企画などを実施し、より長く楽しく催しを満喫できるよう工夫します。また、未就学児を持つ親でも楽しめる環境の整備に努める。                        | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども広場やクイズラリー、演劇公演における無料託児サービスの実施、ゆるキャラの活用等、親子世代でも安心して楽しめる企画・環境づくりを行うことができた。</li> <li>・公募出演団体やボランティアへ協力依頼し、受付人員を拡充させ、クイズラリーやアンケート記入を積極的に呼びかけたことによりアンケート回収率が昨年度から20%増加した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向け企画においては、今後、気軽に体験できるものの</li> </ul>   | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>親子世代が楽しめる企画が多く、子ども広場や無料託児サービスなど、親子で参加する世帯への環境整備もなされていた。（よかった企画についてのアンケートの回答も高い）。また台風により、若干の規模の縮小はあったが、フードコートに関しては、高校生のレストランや東伯ミートなど、地元の食材を使い、充実した内容であった。このことは長時間滞在する参加者を増やすことにもつながると思われる。</p>  |

|                                      |  |   |  |  |
|--------------------------------------|--|---|--|--|
|                                      |  |   | <p>他、創造性を養う企画も幅広く取り入れていくことを模索したい。</p> <p>・周遊企画と展示等をより関連付け、さらに作品・ワークショップの鑑賞・参加の導入となったり、周遊が楽しくなる仕組みを検討していきたい。</p>  |  |
|                                      | <p>チラシやポスターのほか、ウェブやSNS等を活用して、積極的かつ魅力的な情報発信に努め、より多くの来場を目指す。</p> | <p><b>達成度：概ね達成</b><br/> <b>【成果】</b><br/> アンケートでもチラシ・ポスターを見られた方の割合が高くなっている。チラシ、ポスター、企画別チラシなどの作成に早期から取り組み、新聞折り込みも活用し周知を図ったことが功を奏した。また、昨年度課題となっていたウェブやSNSでの発信も細やかに行うことができた。その他、例年にない試みとして立看板の設置ととりアート中部オリジナルカラーののぼりを設置した。台風の影響があったものの目標来場者数の約75%を達成することができた。</p> <p><b>【課題】</b><br/> 委員有志、事務局では積極的にSNS等での発信を行ったが、情報が拡散されたかについては疑問が残る。出演団体とも連携を図り、相互でPRを行って広く情報を届けていくことが必要。</p> <p><b>【実績】</b><br/> HP更新：15回<br/> Instagram：8回<br/> Twitter：15回<br/> facebook<br/> （中部有志）：53回<br/> facebook<br/> （公式）：17回</p> | <p><b>達成度：概ね達成</b><br/> <b>【成果】</b><br/> 行動計画に挙げた、チラシ、ポスターによる広報のほか、ウェブやSNSによる情報の発信は、昨年度を大きく上回り、他の地区に比べてもかなり多い。来場者アンケートによる「とりアート公演を知った理由」で「HP/SNS」を挙げた者も倍増しており、力を入れて取り組んでいることがわかる。</p> <p><b>【課題】</b><br/> 初日は台風の影響があったとはいえ、アンケート集計とその声によると、県外者が来場数の2割を超えており、この多くは梨記念館への来場観光客のようだ。それらの観光客が「とりアート」に来場したというプラス要素もあったものの、来場者数が昨年実績に届かず、掲げた目標に対しても75%にとどまった。自己評価ではSNSでの情報の拡散を課題に挙げているが、来場時に登録や拡散を行うことで、賞品が当たる等の特典を付けるなど、今後にも向けた仕掛けづくりをしてはどうか？</p> |  |
| <p>「アート」が育む・「アート」を育む<br/> ～人づくり～</p> | <p>指導者・後継者・担い手、アートマネージャー、技術者、支援者などの育成及び育成した人材の活用</p>           | <p>とりアート委員によるメイン企画として地元活動者を起用した演劇公演を実施することで、とりアートに長く関わってきた人材の積極的活用に努める。</p>   | <p><b>達成度：概ね達成</b><br/> <b>【成果】</b><br/> ・地区事業のメイン企画として、地元の演劇活動者だけでなく、音楽団体とも連携した演劇公演を上演し幅広い人材の活用ができた。<br/> ・「不条理劇」という難解なテーマ故に出演者・スタッフ間で解釈についての議論を重ね、作品と向き合う機会が増えた結果、実施者のレベル向上にもつながった。これは、時間・予算を確保できる</p>   | <p><b>達成度：概ね達成</b><br/> <b>【成果】</b><br/> メイン企画は必要であり、行動計画の通り、委員の企画として、演劇並びに音楽の地元活動者を起用した演劇公演を実施した。</p> <p><b>【課題】</b><br/> 舞台の質は良かったが、不条理劇は、「とりアート」には向かなかったかもしれない。<br/> 取組目標は、指導者、後継者（等）の「育成および育成した人</p> |

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
|  |  | <p>とりアートだからこそ得られた成果である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難解なテーマではあったが、満足度 77%を獲得することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、スタッフは演出と舞台監督とを兼ねたが、本来は分離すべき役割であった。本来の役割に専念できるよう地元活動者の育成が必要である他、人材育成部会で育成された人材との連携も今後検討が必要である。</li> <li>・「不条理劇」というテーマがとりアートで受け入れられるものであったかどうかは、難しいところもあるが、何故とりアートでこの題材を選び、どのようなメッセージが発信できたかについては継続的に検証してみたい。</li> </ul>   | <p>材の活用」の項目だが、実際の舞台は、演劇部分・音楽部分共に、演出家や出演者がこれまでに自己や自分の所属する団体で研さんを積んできたスキルの賜物であり、とりアートで「育成及び育成した人材の活用」とはいえない。目標達成のための行動計画を設定してほしい。</p>  |
|  | <p>中部地区企画運営委員会が運営・育成している「中部少年少女合唱団 MIRAI」の活動を広げるとともに、団員数の維持に努め、継続性のある団体運営を目指す。</p> | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団員の中には数年にわたって参加している児童生徒もあり、合唱力の安定につながっている。また、例年参加している「鳥取県合唱フェスティバル」「倉吉天女音楽祭」の他、「この地球に生まれて」、「みつまち紅白歌合戦」等の出演依頼があったりと、合唱団が地域に浸透し出演機会が増え合唱力の向上や舞台に立つ喜びをもたらしている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント参加要請が増えることで出演可否の判断が難しくなっている部分は否めないため、今後、出演するイベントの基準を設ける等の検討が必要。</li> <li>・昨年度と比較して、団員数 20 名以上を維持できず、また、今年度の新規参加は 1 名であった。今後は多くの児童生徒の参加を呼び掛けたい。</li> </ul> | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>とりアートから生まれた合唱団が、とりアート以外の様々な場で活躍しているのは素晴らしいことであり、確実に地域に浸透していることが伺える。また、とりアートのステージでは、他の合唱グループの出演もあり、交流促進にもつながったのではないかと。</p> <p>【課題】</p> <p>行動計画に掲げた「団員数の維持」を達成できなかったのは残念である。活動を継続する中での、人材の維持と確保はどの団体にもある問題の一つであろう。新規参加者が少なかった原因究明とともに参加者拡大の取組を期待したい。</p> |

|                         |                                    |  |  |   |
|-------------------------|------------------------------------|--|--|---|
|                         |                                    | <p>テーマである「次世代育成」をもとに、恒例となっている「絵画コンクール」「ステップアート」だけでなく、幼児・児童・生徒の文化芸術に関する関心・意欲を高めるとともに、保護者や関係先(園・学校等)へのとりアート事業の普及と理解・参加を促すため、さらなる若年層の活躍の場を提供する。</p> | <p><b>達成度：概ね達成</b><br/>【成果】<br/>絵画コンクールでは、応募数が285点と数も安定しており、連続して応募する園児・児童がみられることから、コンクールが定着しつつあるといえる。<br/>ステージでは、湯梨浜学園書道部によるオープニングの書道作品を舞台背景にし、例年とは違うステージづくりに挑戦した。<br/>そのほか、鳥取短期大学生による司会、倉吉北高校によるフードコート出店とボランティア参加、大栄中学校によるステップアート作成、倉吉ジュニアオーケストラ、小中学生によるダンスステージ、響け！カウベル合唱団、日曜バンド、リトルバレリーナ等青少年が活躍する場を多く作ることができ、その関係者や家族へのとりアート事業の理解、普及にも繋がった。</p> <p>【課題】<br/>・絵画コンクールは、学校によって出展数のばらつきがあるため、出展のしやすいテーマやPR等、継続性を保つための工夫を検討したい。また、表彰式が最終日のクローズング前であることから鑑賞者数が少ない傾向があるため、受賞者の思い出に残りつつ、楽しく式を鑑賞できる演出・構成等を検討したい。</p> | <p><b>達成度：達成</b><br/>【成果】<br/>中部地区には数年前から継続的に参加しているが、子供や青少年を対象にした企画が充実しており、子供たちが文化芸術に触れる機会を創出している。<br/>アンケートの記載によると、リトルバレリーナの「バレエ de トトロ」の評価が最も高く、オープニングの湯梨浜学園の書道も5番目に高かった。<br/>その他、司会やフードコートなど、若い世代の活躍の場をさらに拡大しており、評価できる。<br/>※絵画コンクールの出展促進や表彰式の時間などについては、より良くなるように取り組んでほしい点だが、工夫で解決できる範囲であり、「課題」として挙げるほどではないと考える。</p> |
| <p>「アート」で元気に～地域づくり～</p> | <p>県民が伝統文化等を地域資源として再認識できる機会の提供</p> | <p>ステージ企画には、郷土芸能の発表を取り入れる他、展示企画では、昭和の写真展を実施するなど地域の伝統文化を楽しんでいただける機会を提供する。</p>   | <p><b>達成度：達成</b><br/>【成果】<br/>・中部地区の郷土芸能として高城牛追掛節の発表や昭和の子どもたちの写真展での地域の文化・歴史に触れる機会を与えたほか、西部地区の淀江さんこ節等、他地域の文化の紹介をすることができた。引き続き、1市4町の伝統や文化を伝える企画を検討していきたい。</p>  | <p><b>達成度：達成</b><br/>【成果】<br/>中部地区だけでなく、西部地区など他地域の郷土文化の紹介を行うことで、来場者が様々な郷土芸能に触れる機会が創出された。同時に出演者側にとっても、大勢の前で演ずる機会を得たことは、今後につながるものとする。<br/>牛追掛節には高城小児童が参加しており、次世代育成の面でも良かった。<br/>次年度以降も継続して郷土芸能の掘り起こしを期待したい。</p>   |



|    |   |  |  |
|----|---|--|--|
|    | 生活文化における「食」ジャンルに注目し、地産地消の観点で選定した店舗へフードコート出店を依頼し、地域資源のPRとともに来場者満足度の向上および滞在時間の増加を目指す。 | <b>達成度:一部達成</b><br><b>【成果】</b><br>地元食材を使った店舗、倉吉北高校の参画があり地域性のあるフードコートを実施することができた。<br><b>【課題】</b><br>・台風の影響で、館内での販売場所は確保していたが、館内販売ができない一部出店者は出店取りやめの判断をしたため、2日目は特に出店者が少ない状況になってしまった。安全を最優先した荒天時の出店について、早目の判断と対応ができる策を検討し、募集要項に記載するなどの改善が必要である。 | <b>達成度:概ね達成</b><br><b>【成果】</b><br>倉吉北高校のフードコートでは、地元の食材による創作メニューが提供されており、いずれも非常においしかった。地域性の高いフードコートへの取組は評価できるもので、今後も継続して取り組み、質量ともにさらなる向上を期待したい。<br><b>【課題】</b><br>以前にも大雨でフードコートが縮小されたことがあったのに、荒天時の対応を綿密に練っておられなかったのはどうしてなのか。自己評価の通り改善が必要と感じる。 |
| 総括 |   | (16/24) ÷ 66.7%  | (20/24) ÷ 83.3%  |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・来場者満足度は94.4%と、昨年と同水準に保つことができた。
- ・台風の影響で1日目は来場者が少なかったが、来場してくださった方々は、親子や家族が多く、幅広い年齢層の方に楽しんで参加いただけたことが、満足度やアンケート回収率からも伺える。また、両日とも、参加された方の滞在時間が長く、楽しまれていたように感じられる。
- ・ステージでは、障がいのある人もない人もいろいろな方が参加し一生懸命発表されており「だれもがアートに親しむことができる機会の提供」という点で参加・鑑賞しやすいステージやワークショップを実施することができた。
- ・ステップアートの中学校の参加だけでなく、司会の鳥取短期大学生・当日ボランティアの高校生・湯梨浜学園・倉吉北高・多数の若年層の参加があり、例年になく若い姿が見られた。
- ・絵画コンクール作品の展示場所を正面入り口にしたのは初めてであったが、準備・目立ちやすさ・導線等を考慮しても、非常に良い場所だった。
- ・アトリウムという場所での郷土芸能の実施は、「伝統を守っている方々」、「一般に広く認知させる」という意味でも歴史に基づいた存在意義を表現するという点で、ステージ全体が締まるという面でも継続実施を検討したい。
- ・観光客が立ち寄っていかれる雰囲気作りもあり、複合施設の利点が活かされ県外の方にも楽しんでいただける、気軽に参加できるイベントとして定着してきている。
- ・天候の問題もあり、参加者数は目標を行かなかつたが、メイン企画として演劇公演を行うなどの意欲的な企画を実施することができた。
- ・全体の準備や片付けにおいても、段取りが年々良くなり、出演者やボランティア等、委員以外の参加も浸透し、県民で作る文化祭を実現しつつあるように感じる。

### ○課題

- ・台風の影響による開催の可否の判断が難しく、また準備に追われ細やかな情報出しが行えなかったため、今後の改善が必要。※台風の影響による出演辞退2件
- ・1日目は台風の中での実施になり、来場者の満足度はあったように思うが、安全面が第一だと考えると実施すべきだったのかという疑問は残った。安全面を優先した判断基準等を今後検討していきたい。
- ・中止になったものも多いが、10月は各町村地域でのイベントも多いため出演団体やフードコート出店者の確定に苦労した部分がある。実施時期の決定は慎重に行う必要がある。
- ・広報においては、委員会だけでなく、各参加者と連携できる仕組みを今後検討したい。
- ・同ジャンル団体の複数出演は、同じ演目の競合・着替え場所に関する問題、出演順等、出演者からも不平不満が多かった。同種類の企画を一緒にするかどうかの検討は慎重にしなければならない。
- ・突然プログラムの一部を取りやめてしまい、時間が空いてしまった団体があった。次年度以降の申し込み

- があった場合、再発防止を依頼したい。
- 企画によっては、広いアトリウムで行うのではなく、狭い閉鎖的な空間のほうが雰囲気があり良いと思われる団体もあった。実施場所に関しては、企画内容により委員会側からも提案していくことが重要だと感じた。
- さらに中部地区の出演可能な団体を掘り起こすことで、より多彩なイベントにしていきたい。

#### ○その他事業に関する意見、感想など

- UD タクシーで来場され、シルバーカーで会場をまわっている高齢の方の姿もあり、とりアートを楽しみにくださるお客様がいることを実感した。
- 海外の方の来場もあったことから、対応方法を今後検討したい。
- 今後もメインとなる企画の実施を検討したい。

### 【評価委員総括】

#### ○成果

- 次世代育成のテーマのもと、子どもや青少年に向けた企画が非常に充実しており、また子どもや親子が参加しやすいように、こども広場や託児サービスなど環境面の整備も行われていたことは評価できる。
- フードコートについては、自身の中で大人がやるものという先入観をもっていたようで、高校生によるレストランは新鮮な驚きがあった。さらにフードコンテストなどの展開があっても面白いのではと感じた。
- 郷土芸能の実施は、新たな視点の取組で良かった。地域資源を親子連れらに知ってもらうためにもぜひ継続してほしい。
- 昨年はなかったメイン企画が開催されたことは、メリハリがついてよかった。
- アンケート回収率が昨年実績を 20 ポイント上回り、目標とした 40%も超える 59%の実績となった。
- 満足度も目標の 90%を上回り、94.4%と高い水準だった。
- 昨年度の事業評価において課題とされた HP/SNS による情報発信も積極的に取り組んだ。

#### ○課題

- 展示においては、絵画コンクールという継続した企画があり、内容的にも素晴らしい企画だと思うが、この企画頼みな感じもする。この企画は継続しながら、さらに様々な年齢の方を対象にした展示企画の開催も望む。例えば市展や県展の作品の選抜展示をしたり、難しいとは思いますがとりアート独自の公募展などを実施してはどうか？
- ワークショップについてはやはり、「気軽に参加」しにくい値段設定のものも見受けられる。難しいことなのかもしれないが、価格設定を下げた入門的な内容のものも設定しつつ、さらにやりたいという人に向けた価格設定を上げたものも用意してほしい。
- 台風の影響は、県外からの来場者（雨天による梨記念館の観光客の滞在時間延長のため）が例年より約 10 ポイントも多いなど、かならずしもマイナス要因だけだったとはいえないにもかかわらず、入場者数が昨年実績、目標ともに大きく下回った。自然災害等を念頭に置いた対応シナリオを準備し、いかに影響を最小限に抑え込むか、今後に課題を残す結果となった。
- 荒天時のフードコート対策が十分に練られていなかった。
- 突然プログラムの一部を取りやめてしまい、時間が空いてしまった団体があったことや時間オーバー、同ジャンル団体の複数出演による出演時間や着替・荷物置き場についての不満などがあったというが、これら問題発生時の連絡体制や対応の充実が求められる。

#### ○その他事業に関する意見、感想など

- 以前実施したような、少し遅い時間に行う「大人のための企画」の実施も望みたい。そうすることによって幅広い世代や趣味・嗜好の方々に対してアピールできると思う。
- アンケートの中で、県外から来場された方から県をまたいでのコラボの提案などがあったが、そういった企画があっても面白いと感じた。鳥取の中だけにこだわらず、他の地域との文化交流の場であるという面があっても良いと思う。
- ワークショップでは、子どもの創造性を養う企画や、ほかの催事でもよく見かけるのではなく「とりアート」ならではのものにチャレンジしてほしい。

第17回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2019西部地区事業（西部地区企画運営委員会）

令和元年11月30日（土）～12月1日（日） 米子市児童文化センター

文化芸術事業評価シート

| 目的               | 自己評価                  |   |  | 評価委員による指標  |
|------------------|-----------------------|---|--|--|
|                  | 取組目標                  | 行動計画  | 達成度及び理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～ | 県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会を提供 | 幅広い世代の参加を促すことを目標とし、昨年度同様のテーマ、会場で継続実施し、これまでの課題解決、そして事業の発展を図る。<br>子どもを主対象とするのではなく、子どもと一緒に大人が楽しむことが出来るアートへの体験機会の提供を目指し、テーマは「こどもと一緒にアートしよう！」とする。<br><br>（※実施者間での意識の共有を目的に、事前打合せ等の回数を増加する） | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>参加者は子どもから大人まで幅広く、子どもと大人が共に楽しめるイベントとなった。特に参加アーティストの創造性と柔軟性により、実施者が他の企画へ参加する意欲が高まり、より質の高い事業となった。<br>参加者及び実施・運営者が、各企画を見学できる機会を確保するため、重なった時間帯での実施をできるだけ避けたプログラム構成とし、運営者も芸術・文化を意識したイベントづくりが出来た。<br>綿密な事前打合せ等を行うことで、実施者との共通認識を図り、連携の取れた質の高い内容を提供できた。<br><br>【課題】<br>具体的数値目標となる参加者数を設定したが、会場の規模や性質上、幅広い年代の参加や企画数、参加できる人数に制限を設けたため、目標に達しなかった。今後、ターゲットを広げる会場設定、企画選定が必要である。 | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>「こどもと一緒にアートしよう！」のテーマ通り、子どもだけでなく大人も一緒に参加できる工夫されたプログラムが用意されており、それぞれが質の高い企画であった。<br><br>【課題】<br>会場の規模の問題もあり、どうしても企画数、参加できる人数に制限が設けられ数値目標の達成は難しいと考えられる。 |
|                  |                       | 実施企画の選考については、実施者と参加者が、企画を通してコミュニケーションを取り、アートに対するの関心や意識の向上、実施形態ならびに進め方などを重視する。実施者は達成感・充実感を感じる場とし、活動の更なる発展につなげ、身近に文化芸術を感じる機会の提供、併せて地元の優れたアーティストの輩出を促す。                                  | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>公募企画事業への応募者（団体）との選考前の面談を通して、事業趣旨を理解いただき、今年のテーマに合わない企画については、今後のイベントでの実施を検討頂くなど、初期段階で、イベントの趣旨・目的の周知を図り、賛同する実施者を選考した。また、実施前に実施者と委員会との打合せ回数を増やしたことで、実施者の企画意図とイベントの目的との整合性が図れ、実施者間のコミュニケーションも従来より図れたものと思われる。その結果、参加者が参加した企画の内容をより深く体験できたと思う。   | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>各企画者との事前の打合せも十分にされており、委員会の中での企画意図の把握の下、ゆとりすら感じさせる進行がなされ、その結果、各アーティストの魅力が十分に引き出されていた。  |

|                         |  |   |   |   |
|-------------------------|--|---|---|---|
|                         |  |   | <p><b>【課題】</b><br/> イベントの趣旨を、実施者間で共有し、方向性を同じくしたことで、当年に実施できる企画内容がある程度絞られる傾向となった。参加者に対しても一定の質を担保したイベントを提供し、気軽に文化芸術に触れる機会を提供するためには、実施者側からのアプローチ（来るものに対して応えるだけでなく、実施者から与える積極的関与）が重要である。そのため、これまでの実施スタイル（プレ+2日間の本番）を見直し、検討する必要がある。</p>   |   |
| 「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～ | 活動者（指導者・後継者・担い手）の育成、鑑賞者の育成、育成した人材を活用する場の提供   | 鳥取県内外で活躍する県内出身・在住するアーティスト及び、とりアートに関連のあるアーティストを起用し、高質なプログラムの実施と、豊富な経験からなる指導の様子を間近で体験し共有することで、地域の実践者を育成する。  | <b>達成度：概ね達成</b><br><b>【成果】</b><br>本年度は招聘アーティストに企画への柔軟性とイベントに対する理解があり、それぞれの企画を横断して関わっていたことにより、運営側も、想像を超える経験ができ、参加者にとっても、より楽しめる企画になった。<br>イベントを通して、招聘アーティストに対し、新たな取り組みの場を提供することができた。<br><b>【課題】</b><br>とりアートを知らない招聘アーティストに対して、イベントの趣旨や性格を丁寧に説明し、共に事業を創りあげていく環境づくりを行うための人材を確保していくことが課題である。<br>あわせて、地元ゆかりのアーティストに事業の様子を見てもらうなどの参加の機会を作り、共同できる人材を確保することが必要である。 | <b>達成度：概ね達成</b><br><b>【成果】</b><br>各企画とも質の高い、大人にも子どもにも興味が沸くような魅力的なプログラムが実施されていた。<br>アーティスト同士のコラボ企画があり、より楽しめた。<br><b>【課題】</b><br>今後の活動者を確保していくためにも、プロ・アマ問わず招聘アーティストに対し、とりアートへの理解を深めてもらう働きかけの場を設け、地元ゆかりのアーティストにも広く参加の機会を作り共同でモチベーションを高めていくことが望ましい。 |
|                         | 2日間のプログラム構成において、互いの企画を見学できるよう調整し、活動者同士の気付きの場とすると共に、鑑賞者（参加者）もできるだけ多くの企画を見学できるように配慮する。<br>また、運営委員自らも、担当の運営のみ | <b>達成度：概ね達成</b><br><b>【成果】</b><br>例年に比べて、運営委員も各企画を鑑賞する機会ができた。また実施者も、他の企画を見学し、互いの活動の様子を見たり、交流する姿があり、互いに刺激し合うことができた。<br><b>【課題】</b><br>イベント規模としては、地区と | <b>達成度：達成</b><br><b>【成果】</b><br>企画数もほど良い数で、活動者も参加者も複数の企画に参加・鑑賞できるようになっていた。11月30日のダラズFMの公開放送はイベント紹介やアーティストの出演等、よい広報手段となっていた。   |   |

|                  |   |   |  |   |
|------------------|---|---|--|---|
|                  |   | に捕らわれず、各企画を見学し、翌年以降に活かしていく機会とする。  | 比較すれば動員数的には小規模であることは否めないが、西部地区としての目的と質は一定程度以上に担保出来ている。事業規模としても、運営委員人数・予算等鑑みても適当と思われるので、今後は、実施スタイルのアップデートを行うために会場・日程の検討が必要である。  |   |
| 「アート」で元気に～地域づくり～ | 日常的なアートとの関わりによる、地域の魅力ある個性の創出とその交流をアーティストと共に創る   | 長年コンセプトとしてきた「いつものまちで文化する」を継承し、具体化していくために、既存の文化施設にとらわれない、普段から身近に訪れる施設等を会場とすることで、“アート”を体験・実施することに対する考え方を広げる。  | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】<br/>会場が市民にとって幼少の頃からなじみ深い米子市児童文化センターということもあり、その特質を活かした、子どもも大人も楽しめるイベントとなった。本来の会館の使用意図とは異なる部分もあったが、既存の概念にとらわれない、普段のまちの一施設で、アートに触れるということを経験できる機会となった。<br/>今後も、既成概念にとらわれず、「いつものまちで文化する」を継承し、具体化していきたい。</p> <p>【課題】<br/>事前の広報に脆弱さがあり、来場者数の伸びが図れなかった。事前告知によって、普段の会館利用者が、イベントが実施されていることによって来館を避けた可能性もあるが、広報によるイベントの周知が十分に図れていないことが課題である。あわせて、今後、実施内容・集客をふまえた会場設定が必要。</p> | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】<br/>子ども達にとっては馴染み深い施設でのイベントで特別な企画にワクワク感と良い刺激を得る事ができた好機となっていたと感じられた。<br/>親子でのびのびと過ごしている様子が見られ、アートを自然に体験できていたように思った。</p> <p>【課題】<br/>事前の広報の方法に問題があったのか、昨年より来場者数が大幅に減ってしまった。<br/>事前のワークショップに参加できなかった人や当日参加者（特に大人の一般来場者）への配慮も含め、日頃アートに触れる機会の少ない人に対してのアプローチが重要と思われる。</p> |
|                  | 地域に関わり活躍しているアーティストを起用し、県民に身近にアートに関わる機会があることを周知する。アートを通しての交流が、お互いの価値観を知ることができ、寛容な関係性への構築の一手となる機会とする。それぞれの企画において、参加者同士が交流し合えるような機会を増やし、お互いの成果を認識で | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】<br/>参加者が積極的な準備・運営等に協力するなど、アーティストと一緒にアートに関わることを通して、お互いの交流につながる可能性を大きく感じた。<br/>子どもと一緒に大人も参加することで、子どもも大人も、年齢に関係なく、別の参加者の考えなどを知る機会が提供できたように思われる。</p> <p>【課題】<br/>様々なジャンルにわたり、同様な機会が提供できる企画を今</p> | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】<br/>子どもも大人も他の参加者と、また、アーティストとのコミュニケーションを取りながらアートに関わることができていた。<br/>ひとつのジャンルにとらわれず、お互いの成果を認識できたことで、大きな感動が共有できたと思われる。</p> <p>【課題】<br/>質の高いプログラムへの取組を継続しつつ、より気軽に多くの人たちが参加できて短い時間で楽しめるプログラムも検</p>   |   |

|    |                |  |                 |
|----|----------------|--|-----------------|
|    | きる機会となることを目指す。 | 後も検討していき、アーティスト同士の繋がりをさらに広げ、発展させることも目指したい。 | 討して欲しい。         |
| 総括 |                | (12/18) ≒ 66.7%                            | (14/18) ≒ 77.8% |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・西部地区として、近年の中で最も質の担保ができ、来場者に満足いただくイベントとなった。それは、参加したアーティストの本事業に対する理解と協力の賜物であり、これまでのつながり、そして委員とアーティストのつながりが最大限に発揮された。  
公募企画者との選考および選考後の実施までの打合せ回数を増やしたこともその要因であった。今後は、自主企画・公募企画の垣根なく、よりお互いが補完し合えるような機会を設け、アーティストの力と、それによって地域の芸術文化のレベルが上がっていくような、とりアート西部地区らしい事業を目指す。
- ・公募企画の選考において挙げた「幅広いジャンルの実施者が参加できる機会の提供」と、「イベントの質の担保」という、これまでの経験上、相互的に同時に実施することが困難と思われる実施スタイルの検討は、地区事業の目的である裾野の拡大にとって、重要な事であると捉え、来年度事業の組立につなげることが出来た。
- ・親子で参加し、体験することで、文化芸術の良さや魅力を感じてもらえた。来場した家庭の中に文化が浸透し、次の世代への関心へとつながった。
- ・アンケートにおける満足度 94.3%と高く、参加された子どもだけでなく、周りを取り巻く、すべての人がアートを体験できたと感じた。
- ・初めて託児を実施し、保護者の方が体験に集中できる環境を整備し、好評だった。

### ○課題

- ・早い段階からの事業周知（広報）が十分に行えず、来場者が少なかった。イベントの告知のみならず、事業の意図や目的なども周知できるような広報戦略を、年度初めから組み立てて実施する必要がある。次年度以降は、イベントの質の担保と同時に、これまでとりアートに関わったことのない層にまで届くよう広報予算をふまえ検討し、戦略的に広報計画を行うべきである。
- ・新たなアーティストをリサーチし、早い段階で、協力し、連携がとれる環境をつくる必要がある。
- ・当初の計画と変更となったプログラムもあり、事前の準備、配慮すべき事項の精度を上げていく必要がある。あわせて、施設管理者と会場使用について、早期に打合せを行い、情報に齟齬がないようにする必要がある。
- ・とりアートのイベントと分かりづらいので、とりアートらしい会場設営（装飾）が必要である。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・文化芸術の浸透には時間がかかるため、継続して取り組むことが重要だと感じる。「体験」を大切にしながら、子どもたちに文化に触れさせて、新たな価値観を持たせたい。
- ・来年度、「いつものまちで文化する」のテーマも継承できるように日程と会場の目安を早めに決めて、早期の計画立案が必要。

## 【評価委員総括】

### ○成果

- ・全体的に質の高い内容盛りだくさんのイベントとなり、来場者の満足度が高くなる結果を得た。
- ・参加アーティストにおいては各自アートに対する“熱い思い”と“パワー”が存分に発揮された好機となり、これは企画運営委員との良好な関係や助けに依るところが大いにあったと思う。
- ・事前申込みのワークショップの体験も功を奏する結果につながり、より質の高い取り組みとなった。
- ・アーティスト同士のコラボレーション企画も興味深い内容となり、大人も子どもも共に楽しめるひとときとなった。
- ・地元出身アーティストにとっては、幅広い年齢層の来場者にアートを伝える機会となり、今後の活動への広がりを感じられる好機であり、また来場者にとってもアーティストがより身近な存在として感じる対象となったと思われる。

## ○課題

- ・事前申込みのワークショップは有効な手段だが、当日たまたまの来場者にとっては参加しにくいものではなかったか。せめて見学のみの来場者が理解できるようワークショップの始めに”振り返り”の時間を設け、当日のみの参加者が見学しやすい雰囲気作りをしてほしかった。
- ・短い時間で気軽に参加できる企画も用意されていると、より幅広い参加者に体験してもらえる。
- ・アンケート回収率が昨年度実績・目標ともに下回った。要因を見つけ、来年度の改善材料としたい。
- ・11月30日の保育園マーチングバンドの演奏時間が予定よりかなり短く、正確なタイムスケジュールを立てて欲しいと思った。

## ○その他事業に関する意見、感想など

- ・11月30日にダラズFMによる公開放送が館内で行われ、イベントの紹介をはじめ、アーティスト本人の出演もあり、非常に有効な広報手段であった。
- ・会場施設の一部が通常の開館と同じとなっていたため、とりアートとの区別がつきにくい状態だった。当日たまたま訪れた来場者も一緒になって参加できる気軽な企画も必要だと感じた。施設全体で（あるいは施設管理者側も）アートへの関心を高める機会としたい。

第41回鳥取県書道連合会展（鳥取県書道連合会）

令和2年1月31日（金）～2月4日（火） 米子市美術館

文化芸術事業評価シート

| 目的                      | 自己評価  |   |   | 評価委員による指標   |
|-------------------------|---|---|---|---|
|                         | 取組目標  | 行動計画  | 達成度及び理由   | 達成度及び評価委員からのコメント  |
| 「アート」に親しむ環境づくり～         | 童謡唱歌のふるさとでもある鳥取県の特性を生かして、読みやすく親しみやすい漢字仮名交じり書「童謡唱歌を書く」を特別展示する。 | このジャンルは古典が確立していないため、理事以上の役員によって担当する。  | <b>達成度：概ね達成</b><br>【成果】<br>童謡唱歌を書く特別展は以前から好評である。観客に親しみを感じてもらえる取り組みとなっている。<br><br>【課題】<br>若干の練度不足や詞の内容が重なった等の指摘を受けた。 | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>童謡唱歌は鳥取県の文化の一つでもあり、鑑賞者にとって身近で、親しみやすい。そして、書道という芸術の切り口は新鮮であり好評を得た。役員が担当することで質が良く、見応えがあった。                |
|                         | 書展への関心を持っていただくため、紹介記事を新聞に掲載してもらう。                             | 開催地区の役員が中心となって、一般への案内広報を企画した書展紹介記事を新聞に寄稿してもらえ、人を探し、協力依頼する。                        | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>開催地区会長の働きかけで書展開催前日に新聞記事が掲載出来た。   | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>書展開催前日に書道展の案内寄稿の新聞掲載が出来た。当日は新聞記事のコピーが挟まれており丁寧さを感じた。  |
|                         | 県内全域の人が平等に鑑賞機会が得られるよう、基本的に東中西三地区で会場を回り持ちしていく。                 | 昨年度は東部「県立博物館」、今年度は「米子市美術館」、来年度は「倉吉博物館」を予定。  | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>回収アンケートの中に、「地元で鑑賞出来てよかった」との反応が見られた。  | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>三地区での持ち回り開催が順調になされ、今回は米子地区での開催となった。  |
| 「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～ | 会員の制作姿勢を刺激するとともに、次世代の育成を図るため、高校生の作品数点を展示する。                   | 今年度の高校書道展で来年度の全国高校総合文化祭への県代表作となった作品を会場の一角に展示し、会員への刺激、鑑賞者への親しみやすさ、高校生の継続意欲の高まりを図る。 | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>高校生と思われる入場者も10数名あり、刺激を受けた様子がアンケートに見られる。大人にも好評であった。   | <b>達成度：達成</b><br>【成果】<br>高校生の制作意欲のよい刺激となった。若い方の作品なので親しみが持てた。会場の一角がひときわ目を引いた。「第50回県高校書道展感謝報告」はカラーで印刷され、また取りやすいところに置かれていた。好印象だった。 |



|                  |   |   |   |  |  |
|------------------|---|---|---|--|--|
|                  | <p>選抜されて出品している会員に制作意欲を刺激するため、賞を設ける。</p>                   | <p>連合会賞3点、秀作賞6点を設けるとともに、連合会賞にはそれぞれ知事賞・県議会議長賞・県教育委員会教育長賞を授与し、出品者への意識向上を目指す。</p>                                | <p><b>達成度：概ね達成</b><br/>【成果】<br/>連合会賞受賞者には名誉が与えられ、意欲が更に高まったと思われる。<br/>【課題】<br/>表現意図と文字の正確さを上手く合わせていく努力が更に必要。</p>   | <p><b>達成度：概ね達成</b><br/>【成果】<br/>各賞を受賞することで、今後の制作意欲の刺激になった。<br/>【課題】<br/>誤字と思われる漢字表現が前から散見され、さらなる意識向上が必要。</p>                                 |  |
|                  | <p>入館者に鑑賞の要点を理解してもらえように入賞作品の受賞理由と鑑賞のポイントを示す。</p>          | <p>審査で各賞決定後、審査役員によって総評・各賞の受賞理由や見どころを分かりやすく書き、印刷物として来館者に配布する。</p>  | <p><b>達成度：概ね達成</b><br/>【成果】<br/>印刷物を配布し、初日は会長等が解説を行なった。<br/>【課題】<br/>出品者一人一人が思いを書きべきとの指摘が一部あった。</p>   | <p><b>達成度：達成</b><br/>【成果】<br/>総評・各賞の受賞理由が書かれた水色の印刷物が受付で渡された。それを読むことで、受賞作品への理解が深まった。</p>  |  |
| 「アート」で元気に～地域づくり～ | <p>県内三地区の書道連盟でそれぞれ独自の書展を開催し、若手または経験の少ない会員に発表の機会を提供する。</p> | <p>各地区の書連展出品は全ての地区会員に開かれているため、それぞれ取り組みやすいサイズを認めている等の工夫をしている。出品経験を積み重ねることで意欲と自信を高めてもらい、県連合書展への被選抜者への成長を図る。</p> | <p><b>達成度：一部達成</b><br/>【成果】<br/>サイズに幅を持たせることで、初出品へのハードルを低くすることには成功している。中部地区では、「少年条幅展」を毎年併催している。東部地区では高校生の優れた作品を同時展示することも行われている。<br/>【課題】<br/>サイズに幅を設けても、一度出品して大きな作品が多く展示されているのを見ると、次回から気後れしてしまう傾向も一部見られる。</p> | <p><b>達成度：一部達成</b><br/>【成果】<br/>サイズに幅があるために、初出品のハードルは低いと感じた。<br/>【課題】<br/>大きな作品が主流であり、2回目からの出品に気後れ感が出てくる。出品経験を積み重ねる上では、別の方法を考察しなければなるまい。</p> |  |
| 総括               |   | (16/21) ≙ 76.2%   |   | (18/21) ≙ 85.7%  |  |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・全体的には昨年以上に取組の成果があったと感じられる。特に開催地区の委員の努力が大きかった。
- ・アンケートへの協力を呼びかけること、回収箱の位置改善等を行なった結果、アンケートの回収率が昨年度より大幅に向上した。
- ・新聞に紹介記事を掲載出来たこと等により、来場者が昨年度より増えた。
- ・出品作は本展・特別展示ともにバラエティに富むものとなりつつあり、来場者に楽しんでもらえたと思われる。
- ・高校生代表の特別展示は好評で、観客にも会員の出品者にも刺激があり、今後も続けていきたいものとなった。
- ・一部に鑑賞者のマナーの悪さを指摘する声もあったが、受付係などへの評価は好評であった。

### ○課題

- ・アンケート回収率は大幅にあがったものの、細部項目への記入が無いものも多く、回収されたアンケートへの記述内容は昨年度のほうが濃いものであったと感じられた。
- ・会場の標示内容物や、休憩イス等の設置希望があったが、使用会場の都合で出来ないこともある。しかし可能ならば考慮していきたい。

### ○その他事業に関する意見、感想など 特になし

## 【評価委員総括】

### ○成果

- ・高校生の作品が展示してあり、親しみが持てた。これからどのように成長してくれるか楽しみであり、将来への展望が開けた感があった。
- ・書道の本来の展示作品と童謡唱歌といった鳥取県の特徴ある文化を書で表現した作品のコラボは、書道展の奥の深さを感じるものがあった。
- ・高校生代表の特別展は、食い入るように見る来場者を見かけた。注目度の高さが実証された。

### ○課題

- ・一部の鑑賞者の私語が気になった。
- ・高校生代表の特別展は展示数が多くはない。展示数の増加が望まれる。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・「聞」と言う一文字はインパクトがあった。作品の前に立つと、ウオット、のけぞる思いだった。
- ・書が、実社会で使われている事例の展示があると面白い。はがき、本のタイトル、お酒のラベルなど。
- ・去年は、中国吉林省や台湾台中市からの作品の出品や、硯の特別展示や硯に関するビデオ上映もあり、書道展に深みをもたらしていた。

## IV 専門家評価

### 第17回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2019 メイン事業「鳥取銀河鉄道祭」 令和元年11月2日（土）～3日（日） とりぎん文化会館

近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻 教授 阪本洋三

#### 評価の仕方について

この評価は、「心豊かで潤いがある県民生活」「個性豊かで活力ある社会の実現」に向け、「県内あらゆる場所でアートが花開く、想像力と活力に満ちた鳥取県」を目指す県の取り組み（＝「アートピアとっとり行動指針」）に基づき、私が外部評価委員として独自の視点で作成したものです。鳥取県では「アートピアとっとり」（左下枠内）の実現に向けて、以下の「3つの柱と取り組みの方向性」を謳っています。平成29年度にとりアートメイン事業の採択を受けた企画者の木野彩子氏は、それら1つひとつに対して、自らの評価を書いておられますので、県の方針と今回のメイン事業企画の2つの対比を記し、参考にしながら項目に沿って、評価の議論を進めたいと思います（右下枠内）。

「アート」に親しむ～環境づくり  
(1)誰もがアートに親しむことができる  
機会の充実と環境整備  
  
(2)アートの拠点である文化施設の充実  
と新たな拠点づくり

(1)だれもがアートに親しむことができる機会の提供、県民のアート活動の推進  
  
(2)2年に渡るリサーチ事業や自由市場の開催によって舞台芸術関係者にとどまらず幅広い参加者の獲得を目指す。  
  
(3)西部、中部、東部の各地区事業と連携し、一般市民参加型のワークショップを複数回開催する。また作品出演者も県内公募とする。

「アート」が育む～人づくり  
(1)子どものアート観賞・体験機会の充実  
  
(2)アートを支える様々な人材の育成

(1)経験者、未経験者を問わず、良質の作品作りに関わる機会を作ることで、アートに関わる人材を育成する。  
  
(2)低価格設定、幅広い世代に参加してもらう。

「アート」で元気に～地域づくり  
(1)アーティスト等と共に創る地域のアート活動の推進  
  
(2)地域の「宝」を活かした活力ある地域づくり  
  
(3)美術館整備に向けた体制づくり

(1)リサーチ事業や県内各地のワークショップ事業を通じて見えてきた鳥取の暮らしの豊かさを作品で表すように努める  
  
(2)既存の劇場公演の形にとらわれず、プラネタリウムの使用や実験的な試みを行うことで県外からも注目されるような試みとする。

## 1. 企画意図

『銀河鉄道の夜』という宮沢賢治の文学作品に目をつけ、多くの人々を巻き込んで、彼の世界観に触れてもらう機会を共有し、舞台芸術の創作活動、及び付随するリサーチプロジェクト、そしてフリーマーケット活動を通して、この文学作品が持つテーマへの多角的な理解を深めようと考えたその「ビジョンづくり」の功績は大きいと思われます。

賢治の世界観は多くの異なるジャンルの芸術家の想像力をくすぐるものであり、彼の作品を舞台芸術作品として体現する機会を作ったということで、多くの人たちにアート創作の可能性を伝え広めることになったと考えます。

さらにこの文学作品から企画者木野氏が思い描き、伝えたかったことの根幹には、「鳥取県民一人一人が『スタア』なのではないか。命の尊さ、生きること、生かされていることの意味を一緒に考えようではないか。」という視点、また「たとえ何人であっても、アートを通して人生について哲学的に考察し、アートメイキングの実践を共にすることができる」という視点も、私は高く評価できることだと考えます。

賢治の掲げる芸術(=アート)とは、生きること、表現すること、想像し、創造すること、自己を知り、自然や他者と共生すること、など、都市の生活をしていなくても人生を豊かに生きることができる万民の活動でもあるからです。

子ども、障がい者、高齢者、など含め、「アート」の活動を通して「表現したい人たち」「誰かと関わってみたい人たち」に集う機会を作り、創造的で協働的コミュニティを作ろうとした、社会包摂の実践的な試みは、現代社会において、特に格差社会が広がりつつある日本の社会において、また過疎化が進む今の鳥取の社会において大切な試みだと思われます。

## 2. 実施手法

「誰もが」という部分では、参加したい人「誰も」が「アートに親しむことができる機会」は基本的には提供されていたと見受けられます。

単に施設や物理的な場の環境整備だけではなく、また地理的に分散している施設の活用という側面だけでもなく、「門限ズ」のメンバーを中心に、鳥取県内のいくつもの場所に足を運んで「ワークショップ」を2年以上複数回にわたって行ってきた活動は、「アートに親しむ環境づくり」を人的ネットワークの構築も含めて地道に行ったものである、と評価できるでしょう。

また、それらのワークショップでは、「想像力に満ちた」、また、のびのび生き生きとした、まさに「活力に満ちた」「個性豊かな」表現の数々が見受けられ、それらの集大成として今回の舞台公演の実施につながっていることも、長い時間をかけること、異なる地域を巻き込むこと、等を意識し実践した点で評価できると思います。

ただ、「フリーマーケット ケンタウル☆自由市場」と「映像リサーチ」プロジェクトは、大きな根幹的な哲学は共有されていたとは思いますが、企画者の理想には共感を覚えますが、「移動音楽劇」との芸術活動上の直接的なリンクのようなものはそれほど感じられなかったかもしれません。

## 3. 来場者の属性

私が拝見した回の公演(11月2日夕方)は、出演者のご家族やお友達、あるいはこの企画に少しでも関わったりお手伝いしたりしたような人たちが多くに見受けられました。親しみを感じながら、愛情に満ちた観客からのサポートを感じました。またそれ以外の一般参加の観客の方々も、なんだか不思議な世界を観ているような、あるいはどうこの舞台を観たら良いだろうか、と考えながら観ているような人たちが多くに思いました。見渡して感想を述べる以外、「来場者の属性」を詳しく調べることは私にはできませんでした。

## 4. 観客の反応

公演出演者や参加者は、まさにのびのびとアートの「創作」や「表現」を「体験すること」ができていたので、出演者の家族や友達として公演を観に来てくれたと思われる観客は「〇〇ちゃん、頑張っているなあ」とあたたかい眼差しで鑑賞されていたように見受けられました。

それ以外の観客で初めて舞台を観る人は「舞台ってこういうものなのだろうか」と思った人がいたかも

しれませんし、劇団四季や宝塚歌劇や松竹新喜劇などの商業演劇や、海外からの質の高い舞台芸術作品に親しんでいるものにとっては、「このような公演はお金を払って観るものだろうか」という疑問があったかもしれません。

この公演の趣旨や過程についてほとんどその内容を知らされずに、ただこの公演を鑑賞するだけのために訪れた観客の立場からすれば、発表された作品にもう少し「質」の高さを期待したかもしれませんし、市民の手作りの舞台であるとわかっていて最初からそんなに大きな期待はせずに「よくやっている」と思ったかもしれません。論理性や構成のわかりにくさという点では「なんだか不思議な舞台だな」と首を傾げたかもしれません。まだまだ今回の公演には、セリフも、歌も、踊りも、作品構成も、質を高める可能性は残されていたと感じる人達は少なくなかったかもしれませんし、私もそう感じた一人でした。

## 5. 公演に対する総評

『ゲキジョウ実験!!!「銀河鉄道の夜→」』はどんな作品だったか、簡単に特徴を記すところから始め、いくつかの評価に移ります。

作品はラジオ番組さながらの設定でのインタビューから始まり、宮沢賢治の原作を想起させる場面、言葉、人間関係、歌、ダンスなどが、次々と転換される場面として出てきます。それらは参加者が「手作り」で作り上げたことを思わせる、オリジナリティーあふれるものでした。観客を巻き込んで急に始まる人生哲学シンポジウムなども即興性に富み、笑いを誘うものでありながら、人生の深いテーマを身近な日常生活から捉えようとする試みでした。洗練されたミュージカルではないけれども、そこには参加者が自分たちで考え、アイデアや工夫を持ち寄った、「集団で作った未完の手作り工芸品のような音楽劇」とも言えるような舞台芸術作品がありました。

前述の通り、「地域づくり」という視点からも、『ゲキジョウ実験!!!「銀河鉄道の夜→」』のワークショップが鳥取県内のいくつかの場所で行われ、異なる場所から地域の人たちが集ったこと、健常者と障がい者が一緒になって作品を作ったこと、年齢を問わず、あるいは世代を超えて、職業なども異なる人たちが一つの作品を作るために集まったこと、などは全て評価に値する活動だと私は考えます。県内のオーケストラや合唱団、大学のダンス部、図書館職員なども能動的に参加されていることなどからも、地域のアート色を活用していることを感じました。

今回の『ゲキジョウ実験!!!「銀河鉄道の夜→」』は、参加者の「創作の体験」に重きが置かれる企画だった、そしてそれらは貴重な体験としてこの活動に携わった人たちの記憶に残るものだった、と言えるでしょう。「アート経験者」として「門限ズ」の人たち(＝プロの集団)が鳥取県に来られて、多くの「アート創作活動未経験者」や、プロではないかもしれないけれどもアートに触れたことがある人たちと「ワークショップ」、すなわち「アートづくりの体験」を一緒にしてもらうことで、「想像力を刺激することで生まれる、言葉、身体、視覚的または聴覚的な表現の可能性」について、「アート」の概念を広げ、「アートメイキングの楽しさ」を共有したのではないかと考えます。

ここでは「アート」の概念や形態、固定観念を取り去る努力が行われ、「誰でもアートを作ることができる」、「誰でも演じることができる」、「誰でも舞台作りに参加することができる」という前提のもと活動が行われてきていたように見受けられます。前述したように、社会包摂の視点から年齢や職業、障がいの有無に関わらず、多くの人たちが参加されていたことは高く評価できると考えますし、創作過程において1つの「コミュニティ」とも呼べる大家族のような親密で信頼しあえる人間関係によって構築された集団が出来上がっていたように見受けられました。

このアートメイキングによって生じるコミュニティの生成は、今回の企画が「ワークショップ」という手法によって実践され、もたらされた素敵な成果の1つだと思われまます。ただ、「ワークショップ」は、その成果を「質の高い公演」として結実させるべきものではそもそもないということを多くの人々が理解する必要があり、創作の過程がいかに企画意図に沿っていて、またそこに関わった人たちの「学び」がいかに充実した形で存在していたのか、ということが重要な評価になる、と私は考えます。

「ワークショップ」ということばを日本語にした時、私は「協働して創造的に物事を生み出していく学びのあり方」という意味で捉えていますので、「ワークショップ」はそのプロセスそのものが「学び」であり、最終的に良質の公演が行われることが目的ではなく、創作過程の中で参加者がいかに充実した学びを得たか、という教育的に重要な要素が存在するものだとすれば、その意味ではとても充実した学びがあったのだと考えられます。

もう1つ、「鳥取の暮らしを見つめて、魅力を見つける3つのリサーチ事業」については、その成果発表展とトークイベントを拝見できたので、少し言及させていただきます。

このリサーチ事業は、若手映画監督や映像作家に、宮沢賢治が『銀河鉄道の夜』のテーマの一つとして掲げる「日常の暮らしの中にある本当の幸い」という視点を共有してもらい、そこから各々の映像作家が

それぞれの想像力で鳥取の暮らしと向き合って作品づくりに取り組むという、大変面白い、クリエイティブな映像アーカイブ活動とも言えるものでした。

現代社会に住む私たちは、古来から続く上演芸術のようなライブ性の高い性質の芸術と、映像というテクノロジーを得て、人々の生活や出来事を映像化して記録する、という2つの芸術的な世界を手に入れています。舞台ではセリフや歌や踊りを創作し、映像では日常の鳥取の暮らしや失われつつある過去を見つめてアーカイブ化する、というとても意義ある企画を実行されたと思います。

残念ながら私はすべての映像を拝見する時間はありませんでしたが、映像というジャンルの芸術に取り組んでおられる才能ある人たちが、公的な意識を持って過疎化する地方の人々の生き様や忘れ去られてはいけなかもしれない過去の記憶と真剣に向き合っていた様子をトークイベントから察することができました。これらは公的支援無くしてはできない貴重な事業であると考えますし、ここで作られた映像についても然るべき専門家が質的評価をなされることは重要であると考えます。

私はこの映像のリサーチプロジェクトも、できれば何らかの形で舞台制作の中に積極的に反映させることができるような、創作過程におけるプロジェクト間の連携がもう少しあってもよかったのではないかと感じました。

## 6. 課題と今後の展開に向けて

オペラやオーケストラ演奏など、歴史的にも評価が高い欧米の芸術作品を高い演奏技術を持った演者によって公演してもらう鑑賞事業を主なる「芸術に触れる」活動であると考えよう一般的な市民のアート受容の事業形態から大きく脱却して、今回の「とりアートメイン事業」は、日本の文化とは何か、地域から発信するアートとはどういうものであるべきか、「市民がアートに触れ、アートに親しむとはどういうことか」という模索を真剣に行った、新たな形を提示した事業であった、と思います。そして市民をアートの創作者として捉え直し、裾野を広げ、積極的に場所やネットワークを開拓していったという努力、オリジナル作品の創作活動に重きを置いていったこと、これらは高い評価に値すると思います。

「アートとは身近なものだと参加者が感じる事ができた」、というメリットは高い評価に値すると思われる一方で、公演だけを観に来た人達をも満足させることができる、質の高い芸術作品の創作、鑑賞、批判作業なども含めた事業にしていくにはどうすれば良いのか、あるいはそうする必要はあるのか、というような課題が浮上しているのではないかと、とも言えます。

芸術活動にも、芸術教育活動にも、いくつかの側面があります。「創作による学び」「鑑賞及び批評的な学び」「歴史的理解を深める学び」「美学的哲学的及び社会的学び」(DBAE=Discipline-Based Arts Educationの考え方)。それらすべての側面から、アートと関わろうとした今回の企画は評価に値すると思われる一方で、どうすればより質の高い芸術を作り、それらにより多くの人たちが触れることができるのか、アートメイキングの次のステップはどうあるべきなのか、考えていく必要があります。

プロの「アート」の世界にはひたすら高い質が求められるという厳しい側面が存在することを市民に知らしめることは難しいことかもしれません。「誰でもアートに触れることができる」ということと、「抜きん出た才能は一部の人に与えられているものかもしれない」とか「アートも日々日々切磋琢磨して作られるもので、並大抵の努力では素晴らしいものを生み出せない」ということは残念ながら矛盾することだからです。

これは市民芸術を考える上でとても大きな課題だと思いますし、今回のプロジェクトにおいても顕著にみられる兆候かもしれません。それでも本気でアートに関わる人材を育成する、というのであれば、裾野を広げる努力と、才能を伸ばしていく機会の提供は同時に行われなくてはなりません。今回の参加者も、もしこれからも表現活動を続けていけば、表現者としてはさらなる高みを目指すことは大切なことだと思いますし、作曲も、振付も、戯曲創作も、もしかしたらそれぞれのジャンルで「良質」なものを目指すような人材育成プログラムを準備していく必要があるかもしれません。

同じ週に「BeSeTo 演劇祭 26+鳥の演劇祭 12」で行われたいくつかの演劇作品の中には国際的にもトップレベルのものがありました。中でも韓国からこの日韓関係が冷え切っている時期に演劇祭に参加された『パンソリ「オセロ」』は、傑出した舞台芸術作品であり、社会的にも彼らが鳥取に来ていたことは大変に意味があることだと感じました。この折角の機会に、メイン事業の参加者にもこうした大変質の高い演劇祭で多くの作品を観る機会があってもよかったのではないかと、私は考えます。また世界から鳥取にいられている舞台人との交流ができる仕組みがあってもよかったのではないかと、とも思います。ということで、同じ時期に多くの企画が混在していた状況を感じ、もう少しこれらが何らかの形で連携できたのではないかと、という点を残念に思いました。

さらに、これまでの「とりアート」の事業を振り返った時、過去にオペラをされていた人たちも、何らかの形で今回のメイン事業に参加されても良かったのではないかと、とか、同じ会館で同じ時間に行われて

いたジャズのミュージシャンたちは、なぜこちらの『銀河鉄道祭』にも何らかの形で参加されたり交流されたりしなかったのだろう、というようなことも感じました。

多くのアートの「宝」が鳥取県にすでに存在しているなら、地元のプロフェッショナル、セミプロの人たちがたくさんいるなら、企画を採択された人たちが採択されなかった人たちをももっと巻き込んで、アートにあまり触れたことがない市民との「協働作業の場」の活性化の道を探り、社会包摂の次元を複数に高めていく、例えばオペラもジャズも、また目利きプロデューサーがいる地元の演劇祭も、今回の事業を担当された県内の大学教員も、異なるジャンルの芸術に携わる人たちが交わり、議論を戦わせて盛り上げていけるような努力がなされても良かったのではないかと、とも思われるのです。

「様々な次元における社会包摂の試み」、もちろん、このことはとても難しいことだと思われませんが、ラグビー日本代表のように、多様性に富んだ人たちが、まさに“ONE TEAM”の精神に基づいたアート活動で、オール鳥取の芸術活動を質、量ともに盛り上げていくということが「とりアート」の次の方向であってほしい、と私には思われました。

(参考)

■鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿

| 氏名     | 所属等                         | 備考  |
|--------|-----------------------------|-----|
| 尾上 明   | 新日本海新聞社記者                   | 会長  |
| 南家 久光  | 米子文学事務所                     | 副会長 |
| 石谷 依利子 | 砂丘 YOGA 代表                  |     |
| 小椋 博志  | 倉吉室内合奏団 (コントラバス)<br>元河北中学校長 |     |
| 門脇 明子  | 音楽家                         |     |
| 川口 朋子  | DANCEforREAL 代表             |     |
| 近藤 映子  | 鳥取市文化団体協議会理事<br>鳥取女声合唱団団長   |     |
| 谷口 博教  | 元総務省島根行政評価事務所長              |     |
| 前田 夏樹  | 鳥取短期大学生生活学科住居・デザイン専攻准教授     |     |
| 持田 巖   | 農業従事者                       |     |
| 佐伯 哲哉  | (公財) 鳥取県観光事業団 (とっとり花回廊)     |     |



■鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告書執筆担当一覧

| 番号 | 事業名                                    | 主体                      | 団体名           | 期日<br>※プレイベント                      | 実地<br>検証<br>委員<br>数 | 執筆委員<br>(●:主担当) |
|----|--|-------------------------|---------------|------------------------------------|---------------------|-----------------|
| 1  | 第10回とっとり伝統芸能まつり                        | 鳥取県                     | 地域づくり推進部文化政策課 | 6月30日(日)                           | 2                   | ●尾上委員<br>谷口委員   |
| 2  | 第63回鳥取県美術展覧会                           | 鳥取県                     | 地域づくり推進部文化政策課 | 9月14日(土)<br>~11月25日(月)             | 6                   | ●南家委員<br>小椋委員   |
| 3  | とりアート2019メイン事業<br>”ゲキジョウ実験!!!「銀河鉄道の夜」” | 鳥取県総合<br>芸術文化祭<br>実行委員会 | 鳥取銀河鉄道祭実行委員会  | ※4月27日(土)<br>11月2日(土)<br>~11月3日(日) | 7                   | ●川口委員<br>尾上委員   |
| 4  | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・<br>とりアート2019東部地区事業     |                         | 東部地区企画運営委員会   | ※9月8日(日)<br>11月30日(土)<br>~12月1日(日) | 3                   | ●谷口委員<br>石谷委員   |
| 5  | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・<br>とりアート2019中部地区事業     |                         | 中部地区企画運営委員会   | 10月12日(土)<br>~10月13日(日)            | 3                   | ●前田委員<br>尾上委員   |
| 6  | 第17回鳥取県総合芸術文化祭・<br>とりアート2019西部地区事業     |                         | 西部地区企画運営委員会   | ※8月3日(土)<br>11月30日(土)<br>~12月1日(日) | 4                   | ●門脇委員<br>佐伯委員   |
| 7  | 第41回鳥取県書道連合会展                          | 鳥取県文化<br>団体連合会          | 鳥取県書道連合会      | 1月31日(金)<br>~2月4日(火)               | 2                   | ●南家委員<br>川口委員   |

## ■鳥取県文化芸術事業評価委員会 開催状況

| 回数  | 開催日                                     | 報告・協議内容  |
|-----|---|--|
| 第1回 | 令和元年<br>7月24日(水)                        | (1) 協議事項<br>ア 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱の一部改正について<br>イ 令和元年度評価方針・評価方法について<br>ウ 令和元年度評価対象事業について<br>エ 評価事業の実地検証・執筆担当について<br>オ 「第10回とっとり伝統芸能まつり」評価案について |
| 第2回 | 令和2年<br>3月27日(金)<br>※新型コロナウイルス感染症を考慮し中止 | (1) 全委員へ書面による決議を依頼<br>ア 評価委員による評価原案の確定<br>各事業者実施者に対して質問、内容修正<br>イ 評価案確定  |

## ■鳥取県文化芸術事業評価委員会 設置要綱

### 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

#### (目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

#### (委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

#### (委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

#### (組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

2 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

#### (会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

#### (任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることがある。

#### (会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあつては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県地域づくり推進部文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年2月5日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和元年7月24日から施行する。



# 令和元年度鳥取県文化芸術事業評価報告書

令和2年6月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会(事務局:鳥取県地域づくり推進部文化政策課内)

電話:0857-26-7839

ファクシミリ:0857-26-8108